

官報

號外 昭和十二年三月二十七日

○第七十回貴族院議事速記録第二十四號

昭和十二年三月二十六日(金曜日)午前十時
二十二分開議

議事日程 第二十五號

昭和十二年三月二十六日

午前十時開議

第一 小運送業法案(政府提出、衆議院
送付) 第一讀會

第二 日本通運株式會社法案(政府提
出、衆議院送付) 第一讀會

第三 國民健康保險法案(政府提出、
衆議院送付) 第一讀會

第四 保健所法案(政府提出、衆議院
送付) 第一讀會

第五 結核豫防法中改正法律案(政府
提出、衆議院送付) 第一讀會

○副議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセ
マス

(角倉書記官朗讀)

昨二十五日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府
提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆
議院ニ通知セリ

漁船保險法案

漁船再保險特別會計法案

官報號外 昭和十二年三月二十七日

貴族院議事速記録第二十四號 議長ノ報告 小運送業法案外一件 第一讀會

森林火災國營保險法案

森林火災保險特別會計法案

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案

大正九年法律第五十六號中改正法律案

同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ
氏名左ノ如シ

昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債發行ニ關スル法律案特別委員會

委員長 侯爵小村 捷治君

副委員長 堀切善次郎君

議院法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵松本 宗隆君

副委員長 男爵黑田 長和君

アルコール專賣法案特別委員會

委員長 子爵梅小路定行君

副委員長 男爵沖 貞男君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

臨時租稅増徴法案可決報告書

法人資本稅法案可決報告書

外貨債特別稅法案可決報告書

揮發油稅法案可決報告書

有價證券移轉稅法案可決報告書

明治四十年法律第二十一號中改正法律案
可決報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

小運送業法案

日本通運株式會社法案

國民健康保險法案

保健所法案

結核豫防法中改正法律案

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ會議ヲ
開キマス、日程第一、小運送業法案、日程

第二、日本通運株式會社法案、政府提出、

衆議院送付、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括

シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセ

ヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト
認メマス、伍堂鐵道大臣

(左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サ
ルモ參照ノ爲メ茲ニ載録ス以下之
ニ倣フ)

小運送業法案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十二年三月二十五日
衆議院議長 富田幸次郎
貴族院議長 公爵近衛文麿殿

小運送業法案

(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

小運送業法案

明治三十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

相續人ガ被相續人ノ小運送業ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ小運送業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ相續人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

第八條 免許又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第九條 小運送業者其ノ事業ニ關スル協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ届出ツベシ之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

前項ノ協定ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ主務大臣ハ協定ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十條 小運送業者ハ認可ヲ受ケタル運賃及料金ヲ公示スベシ

小運送業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ小運送業ニ付テハ公示シタル運賃及料金以外ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リテ爲シタル特別ノ作業ニ付相當ノ報酬ヲ受クルハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 鐵道營業法第十三條ノ三ノ規定ハ小運送業ニ之ヲ準用ス

第十二條 小運送業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ免許ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

一 本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキ
二 免許又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

三 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セザルトキ

四 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ
五 第十條ノ規定ニ違反シ運賃及料金ヲ公示セズ又ハ不當ノ報酬ヲ請求シタルトキ

主務大臣前項ノ規定ニ依ル免許取消ヲ爲サントスルトキハ審査委員會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス
前項ノ審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 第三條乃至第五條、第八條乃至第十條及前條ノ規定ハ運送品ノ荷造、保管及仕分、保險契約ノ締結、代金ノ取立、立替其ノ他小運送業ニ通常附帶シテ爲ス業務ニ之ヲ準用ス

第十四條 免許ヲ受ケズシテ小運送業ヲ營ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス自己ノ免許名義ヲ他人ニ利用セシメタル者亦同ジ

第十五條 小運送業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一 本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキ
二 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
三 免許又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ
四 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル届出若ハ報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出若ハ報告ヲ爲シタルトキ
五 第五條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ
六 第十條ノ規定ニ違反シ運賃及料金ヲ公示セズ又ハ不當ノ報酬ヲ請求シタルトキ

第十六條 小運送業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ
本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 本法ニ定ムル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監トス)又ハ鐵道局長ニ委任スルコトヲ得

第十八條 第一條ニ掲グル事業以外ノ陸上ニ於ケル物品運送業(鐵道、軌道又ハ自動車ニ依ル物品運送業ヲ除ク)又ハ陸上ニ於ケル物品運送ノ運送取扱業若ハ運送代辦業ニ於ケル運賃、料金其ノ他ノ取扱條件ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法公布前小運送業ヲ開始シタル者又ハ其ノ承繼人ニシテ本法施行ノ際現ニ小運送業ヲ營ムモノハ本法施行後三月内ニ主務大臣ニ其ノ旨ノ届出ヲ爲ストキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ小運送業ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法公布ノ日以後ニ小運送業ヲ開始シタル者ニシテ本法施行ノ際現ニ小運送業ヲ營ムモノ又ハ其ノ承繼人ハ本法施行後三月内ニ限リ小運送業ヲ營ムコトヲ得此ノ期間内ニ免許ノ申請ヲ爲ストキハ免許又ハ免許ノ拒否ノ日迄亦同ジ

日本通運株式會社法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十五日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長 公爵近衛文麿

(小字及一ハ衆議院ノ修正ナリ)

日本通運株式會社法案

日本通運株式會社法案

第一條 日本通運株式會社ハ小運送業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ左ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

一 小運送業者ノ取引ヨリ生ズル債權
債務ノ決済ニ關スル事業

二 貨物引換證ノ整理及保證ニ關スル
事業

三 小運送業ノ助長ニ必要ナル事業

四 小運送業及之ニ附帶スル事業

日本通運株式會社ハ小運送業又ハ之ニ
關聯スル事業ニ投資スルコトヲ得

第二條 日本通運株式會社ノ資本ハ三千
五百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之
ヲ增加スルコトヲ得

第三條 日本通運株式會社ノ株式ハ記名
式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ
帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ
執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額
以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ
外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所
有スルコトヲ得

第四條 政府ハ日本通運株式會社ノ資本
ノ半額ヲ限リ其ノ株式ノ引受ヲ爲スコ
トヲ得

前項ノ株式引受ニ因ル拂込金ハ帝國鐵
道會計ノ資本勘定ノ歳出トシ政府ガ該
引受ニ因リ取得シタル株式ハ同會計ノ
資本所屬物件トス

第一項ノ規定ニ依ル株式ノ株金拂込ハ
其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニス
ルコトヲ得

第五條 日本通運株式會社ニ社長副社長
各一人、理事五人以上及監事二人以上
ヲ置ク

第六條 社長ハ日本通運株式會社ヲ代表
シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務
ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ
行フ

副社長及理事ハ社長ヲ輔佐シ日本通運
株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本通運株式會社ノ業務ヲ監査
ス

第七條 社長副社長、理事及監事ハ株主中ヨ
リ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス
シ其ノ任期ヲ五年トス

社長、副社長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任
期ハ二年トス
選任シ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ主務大臣之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三
年トス

第八條 日本通運株式會社ノ社長、副社
長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ
得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルト
キハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 日本通運株式會社ハ每營業年度
ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ第四
條第一項ノ規定ニ依ル株式以外ノ株式
ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年六分ノ割
合ニ達スル迄第四條第一項ノ規定ニ依
ル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ
要セス

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益
金額ガ第四條第一項ノ規定ニ依ル株式
以外ノ株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ

年六分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超
過額ハ總株式ニ對スル利益配當ガ拂込
ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達ス
ル迄第四條第一項ノ規定ニ依ル株式以
外ノ株式ノ拂込ミタル株金額及第四條
第一項ノ規定ニ依ル株式ノ拂込ミタル
株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之
ヲ配當スベシ

第十條 主務大臣ハ日本通運株式會社ノ
業務ヲ監督ス
主務大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ何時ニテ
モ日本通運株式會社ノ金庫、帳簿及諸
般ノ文書物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ日本通運株式會社
ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲
スコトヲ得

第十二條 定款ノ變更、社債ノ募集、利
益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ主務
大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效
力ヲ生ゼズ

第十三條 日本通運株式會社其ノ事業ヲ
休止セントスルトキハ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ

第十四條 主務大臣ハ日本通運株式會社
ノ決議又ハ社長、副社長、理事若ハ監
事ノ行爲ガ法令、法令ニ基ク命令若ハ
定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムル
トキハ其ノ議決ヲ取消シ又ハ社長、副
社長、理事若ハ監事ヲ解任スルコトヲ
得

第十五條 日本通運株式會社本法又ハ本
法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ社長

又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副
社長ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又
ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長
又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第十六條 社長、副社長又ハ理事第八條
ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下
ノ過料ニ處ス

第十七條 非訟事件手續法第二百六條乃
至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ
之ヲ準用ス

附則

第十八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行
ス

第十九條 日本通運株式會社左ノ事項ニ
付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録
稅ノ額ハ左ノ額トス但シ登録稅法ニ依
リ算出シタル稅額ガ左ノ額ヨリ少キト
キハ其ノ稅額ニ依ル

一 設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額ノ千
分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資
ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一ト
ノ合計額

二 設立ノ際ニ於ケル出資ノ目的タル不
動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得
不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團
體ハ日本通運株式會社ニ對シ前項ニ規

定スル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ日本通運株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十一條 日本通運株式會社ノ設立ニ際シ金錢以外ノ財産ヲ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テハ設立委員ハ出資ノ目的タル財産ノ價格ニ付評價委員會ニ諮問スベシ

前項ノ評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式及前條ノ金錢以外ノ財産ノ出資ニ對シテ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第二十三條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第二十四條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第二十五條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

創立總會ニ於テハ第七條第二項ノ規定ニ準ジ社長副社長理事及監事ヲ選任スベシ

第二十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本通運株式會社社長ニ引渡スベシ

(國務大臣伍堂卓雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 只今議題トナリマシタ小運送關係ニ法律案、提出ノ理由ヲ申上ゲマス、小運送ハ國民經濟上極メテ重要ナル意義ヲ有スルノデアリマスガ、現行制度ノ下ニ於キマシテハ、其ノ經營ヲ自由ニ放任致シテアリマス結果、小運送業ノ堅實ナル發達ヲ期待シ得ナイバカリデナク、一般利用者ニ對シテモ尠カラザル不便、不利ヲ與ヘテ居ル實情デアリマス、仍テ此ノ際小運送業ヲ免許營業ト致シマシテ、資力薄弱、信用不確實ナルモノノ輩出ヲ防止スルト共ニ、免許營業者ニ對シマシテ適當ナル監督取締ヲ加ヘタイト存ズルノデアリマス、又小運送業ハ其ノ業務ノ性質上、業者間ニ於ケル貸借ノ決済、業務ノ連絡、其ノ他ノ統轄事務ヲ行フ機關ヲ必要トスルモノデアリマシテ、此ノ機關ヲシテ業者間ノ連絡ト事業ノ助成トヲ行ハシムルコトガ小運送改善ノ捷徑デアルト考ヘルノデアリマスガ、現今ノ如キ數箇ノ營利會社ニ之ヲ委ネマスコトハ、公益上不適當デアリマスシ、又直接國家ノ經營トスルコトモ實情ニ副ハヌ處ガアリマスノデ、此ノ際新クニ半官半民ノ特殊會社ヲ設立シ、國家ガ適當ニ之ヲ

監督助長致シマシテ、統轄機能ノ完全ナル運用ヲ圖リタイト存ズルノデアリマス、尙小運送改善ノ問題ハ業界二十年來ノ懸案デアリマシテ、鐵道省ハ從來色々ノ方策ヲ講ジマシタガ、何レモ徹底シタ成果ヲ收メルニ至ラズ、又帝國議會ニ於キマシテモ、此ノ小運送改善ガ屢、問題ニナツタノハ御承知ノ通りデアリマス、鐵道省ハ之ニ鑑ミ、昨午朝野ノ權威者ヲ網羅シタ小運送制度調査會ヲ設ケ、慎重審議ヲ御願シ、其ノ答申ヲ得マシタノデ、之ニ基キ茲ニ兩法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、業界ヲ根本的ニ改善シテ國民利福ニ寄與スルニハ、是非トモ此ノ兩法ノ實施ニ俟タネバナラスコトト信ズル次第デアリマスカラ、何卒御審議ノ上御協賛ヲ賜ハラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵池田政時君 今只議題ト相成リマシタ小運送業法案外一件ハ重要法案デアリマスガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(角倉書記官朗讀)

小運送業法案外一件特別委員
公爵鷹司 信輔君 侯爵久我 通顯君

伯爵副島 道正君 子爵今城 定政君
子爵新庄 直知君 子爵秋元 春朝君
男爵飯田精太郎君 男爵大藏 公望君
男爵加藤 成之君 遠藤 柳作君
青木 周三君 八田 嘉明君
林 平四郎君 岩田 宙造君
風間八左衛門君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、國民健康保險法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、內務大臣

國民健康保險法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十二年三月二十五日
衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及ハ衆議院ノ修正ナリ)
國民健康保險法案

國民健康保險法

第一章 總則

第一條 國民健康保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ疾病、負傷、分娩又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルモノトス

第二條 國民健康保險ハ國民健康保險組合(以下組合ト稱ス)之ヲ行フ

第三條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

組合ガ規約ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三條ノ規定ニ拘ラズ時効中斷ノ效力ヲ有ス

第四條 國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第五條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第六條 保險給付ヲ受ケル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第一百一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第九條 營利ヲ目的トセザル社團法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第十條 本法中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ國民健康保險組合聯合會ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

第十一條 本法中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 國民健康保險組合

第一節 總則

第十二條 組合ハ左ノ二種トス

- 一 普通國民健康保險組合
- 二 特別國民健康保險組合

組合ハ法人トス

第十三條 普通國民健康保險組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組合員トシ、特別國民健康保險組合ハ同一ノ事業又ハ同種ノ業務ニ従事スル者ヲ組合員トシ之ヲ組織ス

第十七條 第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タル資格ナキ者ハ組合員タルコトヲ得ズ但シ其ノ世帯ニ被保險者タル資格アル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

普通國民健康保險組合ノ地區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十四條 組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作り組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第十五條 組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 事務所ノ所在地
- 三 組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍）
- 四 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項
- 五 被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項
- 六 其ノ他重要ナル事項

第十六條 普通國民健康保險組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者（特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク）ハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十七條 組合ハ組合員及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ以テ其ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 健康保險ノ被保險者

二 他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

三 特別ノ事由アル者ニシテ規約ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ニ拘ラズ組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ包括シテ被保險者ト爲サザルコトヲ得

第十八條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條 組合ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限り被保險者ニ非ザル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得

組合ハ前項ノ規定ニ依リ組合ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 本法ニ規定スルモノノ外組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 事業

第二十一條 組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付、分娩ニ關シテハ助産ノ給付、死亡ニ關シテハ葬祭ノ給付ヲ爲ス但シ特別ノ事由アル組合ハ助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲サザルコトヲ得

組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

特別ノ事由アル組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ給付ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトト爲スコトヲ得

第二十二條 療養ノ給付、助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス組合其ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合其ノ他必要アル場合ニ於テハ其ノ都度之ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ得

第二十三條 組合ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給付ヲ受クル者（給付ヲ受クル者組合員ニ非ザル場合ニ於テハ其ノ屬スル世帯ノ組合員）ヨリ徴收スルコトヲ得

第二十四條 組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲メ左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
二 健康診斷ニ關スル施設
三 保養ニ關スル施設
四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設

第二十五條 組合ハ其ノ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保險料ヲ徴收ス

組合ハ特別ノ事由アル者ニ對シ保險料

ヲ減免シ又ハ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十六條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得

第二十七條 保險給付ノ種類範圍支給期間及支給額、保險料ノ額徴收方法及減免其ノ他保險給付及保險料ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三節 管理

第二十八條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

組合會議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

組合會議員ハ組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十九條 組合會ノ議決スベキ事項左ノ如シ

一 收入支出ノ豫算
二 事業報告及決算
三 收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
四 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
五 組合債

六 規約ノ變更

七 其ノ他重要ナル事項

前項第一號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十一條 組合ニ理事數人ヲ置ク

理事ハ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限り前項ノ規定ニ拘ラズ理事中ニ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルモノトス

第三十二條 理事ノ中一人ヲ理事長トス

理事長ハ理事ニ於テ之ヲ互選ス但シ前條第三項ノ規定ニ依リ理事アルトキハ特別ノ事由ナキ限り之ニ付選任ス

理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十三條 組合會成立セズ又ハ其ノ議

決スベキ事項ヲ議決セザルトキハ理事ハ地方長官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十四條 組合會ニ於テ議決スベキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セザルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第三十五條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スベシ

第三十六條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事長及理事以外ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四節 分合及解散

第三十七條 組合分割、合併又ハ解散ヲ爲サントスルトキハ組合會ニ於テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第四十條 組合解散シタルトキハ理事清算人ト爲ル

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス清算人缺ケタルトキ亦同ジ

清算人ハ組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス清算方法及財産處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三章 國民健康保險組合聯合會

第四十一條 組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ國民健康保險組合聯合會（以下組合聯合會ト稱ス）ヲ設立スルコトヲ得

組合聯合會ハ法人トス

第四十二條 組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合聯合會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第四十三條 組合聯合會ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 組合聯合會ノ目的及事業

二 組合聯合會ノ名稱

三 事務所ノ所在地

四 加入及脱退ニ關スル事項

五 經費ノ分賦ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第四十四條 組合聯合會ニ總會、理事長及理事ヲ置ク

總會ノ組織並ニ理事長及理事ノ選任ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第四十五條 本章ニ規定スルモノノ外組合聯合會ニ關シテハ第十八條乃至第二十九條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十三條乃至第三十九條ノ規定ヲ準用ス

第四章 監督及補助

第四十六條 主務大臣及地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ其ノ役員其ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ地方長官ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十八條 地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約、主務大臣若ハ地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ其ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合若ハ組合聯合會ノ解散ヲ命ズル

若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第九條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十九條 國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

道府縣及市町村ハ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五十條 審査、斡旋、訴訟及訴訟

第五十一條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ國民健康保險委員會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキ民事訴訟ヲ提起スルモノトス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中断ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第五十二條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ト醫師、齒科醫

師、藥劑師其ノ他ノ者又ハ其ノ團體トノ間ニ於ケル保險給付ニ關スル契約ニ關シ紛爭ヲ生ジタルトキハ國民健康保險委員會ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 國民健康保險委員會ノ組織、審査及斡旋ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 組合ノ爲シタル保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第八條ノ規定ニ依ル滞納處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ關スルモノニ在リテハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルモノトス

第五十五條 本章ニ規定スル審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五百十八條第二項及第五百十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰則

第五十六條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會第四十條第五項又

五
ハ第四十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ゲタルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
醫療設備ノ利用ヲ目的トスル産業組合ニシテ昭和十二年三月三十一日ニ於テ現ニ醫療事業ヲ行フモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第七條第九條、第四十五條乃至第四十八條、第五十條及第五十四條ノ規定ハ前項ノ許可ヲ受ケタル産業組合ニ之ヲ準用ス但シ第四十七條中解散ヲ命ズルコトヲ得タルハ附則第二項ノ許可ヲ取消スコトヲ得トス

第十六條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項第二號中他ノ組合トアルハ他ノ組合又ハ附則第二項ノ許可ヲ受ケタル産業組合トシ、第四十條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中組合トアルハ組合及附則第二項ノ許可ヲ受ケタル産業組合トス

(國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル)

○國務大臣(河原田稼吉君) 國民健康保險法案ヲ提出スルニ當リマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、國民ノ健康ガ國力進展ノ原動力デアリマスコトハ申ス迄モナイコトデアリマシテ、其ノ保持増進ヲ圖リマスコトハ極メテ必要デアルト考ヘルノデアリマス、而シテ之ガ爲ニハ幾多ノ方法ガゴザイマセウガ、傷病ニ際シマシテ必要ナ

ル醫療ヲ受ケシメ、速カニ健康ノ回復ヲ圖リマスコトハ最モ肝要ナコトデアリマス、然ルニ醫療ヲ受ケルコトニ關シマシテ、第一ニ問題トナリマスノハ醫療費ノ負擔デアリマシテ、一度傷病ニ際會致シマスルヤ、一時ニ多額ノ出費ヲ要シマスコトハ、一般國民ニ取リマシテ誠ニ苦痛トスル所デアリマス、其ノ結果十分ナル醫療ヲ受ケルコトガ出來ナイト云フコトハ、國民保健及國民生活安定ノ見地カラ觀マシテ忽ニスベカラザル重大事ト考ヘルノデアリマス、殊ニ最近ニ於キマスル農山漁村居住民、都市中小商工業者等ノ疲弊ハ深刻ナルモノガアリマシテ、斯カル人々ニ取リマシテ醫療費ハ相當經濟の重壓トナツテ居ルノデアリマス、此ノ醫療費問題ヲ根本的ニ解決致シマスルニハ、共同ノ力ト平素ノ用意トニ依リマスル保險ノ組織ヲ以テ最良ノ策デアルト考ヘルノデアリマス、國民健康保險制度ノ案ヲ茲ニ作成致シマシテ、社會保險調查會ニ諮問致シマシタル所、現下ノ社會情勢ニ照ラシマシテ必要ナル施設トシテ、滿場一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、更ニ第六十九議會ニ於キマシテ、國民健康保險法制定ニ關スル建議ガアリマシテ、又昨年六月、社會事業調查會ニ於キマシテモ、本制度ノ速カナル施行ヲ要望セラレタノデアリマス、依ツテ政府ハ是等ノ建議及答申ニ基キマシテ鋭意研究ノ結果、茲ニ本法案ヲ提出スルニ至ツタ次第デゴザイマス、本法案ノ骨子ト致シマスル所ハ、相扶共濟ノ精神ニ

則リマシテ國民健康保險組合ヲ設置セシメ、此ノ組合ヲシテ健康保險事業ヲ爲サシムトスルモノデアリマス、本組合ハ原則トシテ從來郷土の團結ヲ有シテ居リマスル市町村ノ區域ニ依ルコトヲ致シ、補充的ニ職業の組合ヲ組織スル途ヲモ開イテ居ルノデアリマス、本組合ノ事業ト致シマシテハ療養ノ給付ヲ中心ト致シテ居ルノデアリマシテ、組合ノ事業及經營ノ方法ハ、各組合ノ實情ニ應ジマスルコトガ肝要ト考ヘマスルノデ、事業ノ内容ハ概ネ組合ヲシテ自治的ニ決定セシムルコトヲ致シテ居ルノデアリマス、尙本制度ハ右ノ如キ趣旨ニ依リマシテ醫療費問題ヲ解決致シテ國民ノ健康ヲ保持増進セムトスルノデアリマスガ、醫療機關トノ關係ハ最モ重要デアリマスルノデ、之ガ實施ニ當リマシテハ、可及的ニ從來ノ醫療制度ニ影響ヲ與フルガ如キコトナキヤウ十分指導スル考デアリマス、健康ニ關シマスル保險ニ付キマシテハ、既ニ勞働者ノ健康保險制度ヲ實施シテ居ルノデアリマスガ、其ノ實績ニ顧ミ、又農山漁村居住民及都市ニ於ケル中小商工業者等ノ實情ヲ考慮致シマシテ、本制度ヲ制定スルニ至ツタノデアリマシテ、斯クノ如キ制度ニ依リマシテ國民ノ健康ヲ保持増進シ、以テ國民生活ノ安定ヲ期シマスルコトハ、時局ニ鑑ミ喫緊ノ要務ダト考ヘル次第デアリマス、尙本法案ニ對シマシテハ衆議院ニ於テ修正ガ加ヘラレタノデアリマス、ソレハ營利ヲ目的トセザル社團法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リマ

シテ、國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコトヲ得ル旨ノ所謂代行ニ關スル規定ガ、原案ノ第九條ニアツタノデアリマスルガ、之ヲ昭和十二年三月三十一日ニ於テ現ニ醫療事業ヲ行フ醫療利用組合ニ限定シ、其ノ旨ヲ附則ニ規定スルコトニ修正セラレタノデアリマス、修正ノ趣旨ハ、國民健康保險組合ヲ本則ト致シマシテ、醫療利用組合ノ代行ハ例外的デアリマスルコトヲ明瞭ニ致シ、之ヲ制限スルコトニ在ルト存ズルノデアリマス、政府ニ於キマシテモ、本修正案ニ依リマシテモ、本法案本來ノ精神ニ牴觸セズ、實施上支障ヲ生ズルコトハナイト信ズルノデアリマス、政府ニ於キマシテハ、國民生活安定ノ爲ニハ醫療ヲ普及徹底致シマスルコトガ極メテ肝要デアルト考ヘマスルノデ、本法案ガ速カニ成立スルコトヲ希望致ス次第デアリマス、從ヒマシテ兩院ノ御意見ガ一致致シマシタナラバ、其ノ御決議ヲ尊重シテ善處致ス考デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ御協賛ヲ賜ハラムコトヲ切ニ御願ヒ致ス次第デアリマス

(土方寧君發言ノ許可ヲ求ム)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 質疑ノ通告ガゴザイマス、順次御許シテ致シマス、金杉英五郎君

(金杉英五郎君演壇ニ登ル)

○金杉英五郎君 私ハ只今上程セラレマシタル國民健康保險法案ニ付キマシテ内務大臣ニ二三ノ質問ヲ試ミタイト思ヒマス、其ノ前提トシテ二三ノ卑見ヲ申述ベマスルコ

トノ御許シヲ願ヒタイト存ジマス、私ハ元來社會立法中醫事衛生ニ關スルモノニ付テハ我が國情、國民性ニ鑑ミテ尙早ナリトノ持論デアリマシテ、今回御提出ニ相成リマシタル國民健康保險法案ニ付テモ亦同様、果シテ急設ヲ要スルモノナルヤ否ヤヲ疑フ者デアリマス、併シナガラ該案ハ既ニ衆議院ノ審議ヲ經テ本院ニ回付セラレタルモノナルヲ以テ、一ニハ衆議院ノ院議ヲ尊重スル意味ト、一ニハ會期切迫ノ折柄、徒ニ議論ヲ闊ハシテ議事ヲ遷延シ審議未了ニ終ルガ如キ運命トナリマシテハ、折角醫務普及、國民生活ノ安定、社會平和ノ確保ヲ標榜シテ立案セラレタルモノヲ水泡ニ歸セシムルガ如キコトガアリマシテハ遺憾ト存ズルノデ、強ヒテ反對スルヤウナコトハ差控ヘマスルガ、唯此ノ機會ヲ利用致シマシテ第一、既往ニ實施セラレタル衛生保健ニ關スル各種ノ社會立法が果シテ豫期ノ效果ヲ收メ居ルヤ否ヤニ付テ申述ベ、第二ニハ、爲政家並ニ一般公衆ノ一部分ニハ開業醫師ヲ誤解若シクハ曲解スルコトナキカニ付テ申述ベ、第三ニ、國民健康保險立法ニ付テ質問ヲ試ミ、御腹藏ナキ御答辯ヲ煩ハシタイト存ジマス、尙昨今ノ新聞紙上ニ據レバ、私ハ醫師會代表ノ立場ニ於テ、又有馬伯爵ハ産業組合代表ノ立場ニ於テ質疑ヲ行フコトニ決シタ云々トアリマシタガ、少クモ私ハ醫師會ノ代表ノ立場ニ於テ演壇ニ起チタル者デナク、不肖ナガラ立法府ノ一員トシテ大處高處ヨリ公正中和ノ意思ヲ

以テ卑見ヲ申述ベ、疑義ノ存スル所ヲ氷解セムトスルモノニ外ナラヌ次第デアリマスルト云フコトヲ豫メ申上ゲテ置キマス、率直ニ申シマスレバ我國現時ノ國情、國民性ヨリ察シマスルノニ、一般公衆が果シテ國民健康保險法ノ實施ヲ要求スルノ情勢ナリヤ否ヤト云フ點デアリマシテ、古人ガ不怠ノコトハ切ニ爲スナカレシク神ヲ勞シ力ヲ費ヤスノミデアルト言ウタコトガ眞理デアルトスレバ、此ノ簡單ナル案ノ爲ニ衆議院ニ於テ七八回ニ亙ル特別委員會ノ討議ヲ繼續セネバナラス程神ヲ勞シ力ヲ費ヤスベキ急ヲ要スルモノデアラウカ、又既ニ八九年間實行シ來リタル勞働健康保險法が豫期ノ效果ヲ收メ得ザリシト云フ世間ノ評判カラ見マシテモ、未ダ就ラザルノ功ヲ圖ルヨリハ既ニ成ルノ業ヲ保ツニ如カズ、既往ノ失ヲ悔ユレバ將ニ來ラントスルノ非ヲ防グニ如カズノ古訓ヲ守リ國民健康保險立法ニ付テハ尙大イニ檢討ヲ重ネルノ要アリシモノニ非ザリシカト思フノデアッタノデアリマス、而シテ先ヅ以テ既成ノ勞働健康保險法ノ運用ヲ完成セシムルコトガ急務デハアルマイカト思ハル、ノデアリマス、併シナガラ此ノ案が兩院ヲ通過致シ御裁可ヲ仰ギテ實行ニ移リタル以後ニハ、其ノ圓滿ナル發達ニ付テハ勞働健康保險法案ニ於ケル時同様ニ、私ハ聊カ微力ヲ致スノ用意ヲ有スル者デアリマス、唯々國民健康保險立法ノ缺陷多クシテ不完全ナリト認ムベキハ、前ニ申上ゲマシタル通り衆議院ノ特別委員會

ガ七八回モ繼續サレ、而モ喧々囂々タリシコトハ數十億圓ノ豫算審議ニモ劣ラス程デアリマシタコトニ見テモ知ルベキデアリマシテ、若シ之ガ萬人ノ是認スル合理的法案デアッタナラバ、之ヲ過去二十年間ノ議會ノ例ニ徴シテモ、一二回ノ特別委員會ニテ審議完了セラレベキ筈ノモノデハナイカト思ハレルノデアリマス、茲ニ何等カノ缺陷、不完全ナル所ノアリマシタルコトヲ語ルモノデアルト申サナケレバナラナイト思ヒマス、既ニ實行サレツ、アル勞働健康保險法案ノ如キモ過去七八年間、斷エズ社會局ト醫師會トノ摩擦ヲ持續致シ、衛生行政中樞機關タル衛生局ト反リガ合ハズ、事業家、勞働者ノ一部ニモ不滿アリト云フ狀態デアリマシテハ、健康保險立法ノ目的ヲ達セムトスルコトハ少シク無理ナルコトデアリマシテ、恰モ興行主ガ俳優、舞臺監督、囃子方、見物人等ト衝突シツ、芝居ノ大入繁昌ヲ望ムノト同様、決シテ圓滿ナル發展ヲ企圖シ得ベキモノデハナイト考ヘマス、蓋シ其ノ茲ニ至リマシタル所以ハ相互ガ獨善主義デアッテ、中和ヲ缺クガ故デハアルマイカト思ハレマス、苟モ中ハ天下ノ大本ナリ、和ハ天下ノ達道ナリト云フ理想ヲ以テ協調シタナラバ、斯ンナ狀態ヲ持續シ得ラルベキモノノ筈デハナイト思ハルノデアリマス、若槻、濱口兩内閣時代カラ俄ニ自由主義ノ擡頭トナリマシテ、從ッテ社會政策ニ關スル各種ノ立法が提案セラレタルコトハ御承知ノ通りデアリマス、衛

生保健ニ關スルモノニ付テハ勞働健康保險法案、實業稅廢止法案等が提出セラレタルデアリマス、又中央「アフリカ」ニデモ見ルヤウナ賣藥混合販賣案ナルモノモ出タノハ其ノ頃デアリマス、當時拙者ハ是等ノ案ニハ尙早ナリトシテ異論ヲ唱ヘタル一人デアリマシタガ、當時貴衆兩院ニハ社會立法ナル名目ニ眩惑シタル者ガ多カリシモノト見エマシテ、前二案ハ容易ク成立致シ、後ノ一案ハ勿論否決セラレタノデアリマシタ、賣藥稅ノ如キ數十年ヲ經過シテ、最早惡稅ニ非ズシテ良稅ト變ジテ居リマスモノヲ、社會政策ノ名ノ下ニ廢シタト云フヤウナコトハ、經費多端ノ時勢ヨリ考フレバ一層惜シムベキモノデアッタト思ヘラタノデアリマシタ、其ノ頃賣藥稅ノ總額ガ二千萬圓ニ近キモノデアリマタカラ、賣藥ノ數量ガ數倍ニ増加シタル今日ヨリ數ヘマスレバ、恐ラクハ其ノ稅額ハ四五千萬圓以上ニモ達スルデアラウト思ヒマス、而モ其ノ廢稅ガ如何ナル理由ヲ以テ社會政策トナルデアラウカト云フコトハ、當時私ガ當事者ニ質問致シマシタル答辯ガ甚ダ不明ナリシガ如ク、今日ニ至ッテモ如何ナル所ヲ擱ヘテ社會政策ト云フノデアアルカト云フコトハ甚ダ不明デアリマス、當時私ハ如上ノ諸案ニ反對シタル理由ハ、總テ社會立法ナルモノハ其ノ國情、國民性ヲ洞察シテ按排施設スベキモノデアッテ、例ヘバ勞働健康保險法案ノ如キモ國情、國民性ノ全然異ナレル歐米諸國ニテハ其ノ必要ヲ感ジタルモノデアラウケレ

ドモ、我國ニテハ此ノ模倣行爲ダケハ早手廻シデアツタ、即チ尙早デアルト唱ヘタノデアリマス、何トナレバ現代ノ國民性ガ如何ニ輕佻浮薄ニ傾キツ、アルトハ申シナガラ、當時ノ醫師ハハマダ隣保相扶ノ觀念ガ十分ニ保持サレテ居リ、加之大部分ノ事業家及勞働者モ亦十分醫師ノ隣保相扶ノ觀念アルコトヲ認メテ居ツカラデアリマス、ソレ故ニ若シ之ヲ實施スルコトニナレバ、勞働者即チ被保險者、事業家、醫師ノ三方面ニ各種ノ苦情ガ起ルデアラウ、即チ社會政策ノ押賣ニ驚クデアラウ、從ツテ其ノ圓滿ナル發達ヲ期待シ難キモノデアラウト言ツタノデアリマス、今ヤ該法實施後、既ニ七八年ヲ經過シタノデアルガ、果セル哉、勞働者中ニハ年來、相知レル醫師ノ恩情ニ依リ、微細ノ謝禮若シクハ施療ニテ一家ノ健康ヲ保持シ來レル者ガ、俄ニ健康保險法ナル差別待遇ノ治療機關ニ片付ケラレ、何トナク肩身ガ狭イヤウナ感ジガアルトノ懇ヘラ爲ス者ガ續出致シマシタ、事業家ハ該案實施後勞働者ガ濫リニ醫療ヲ受クルノ權利アルガ如ク考フル所ノ傾向トナツテ、些細ノコトニモ醫師ヲ訪ウテ治療致シマス爲ニ、俄ニ罹病率ガ増加致シタト云フコトニ驚ク者ガ續出致シマシタ、醫師ハ有料トモ付カズ、施療トモ付カズ變態患者ノ生ジタル爲ニ、治療上ノ取扱ガ煩雜ニナツタコトヲ懇フル者ガ續出スルニ至ツタノデアリマス、誠ニ是等ノコトハ私ヲシテ先見ノ明者タラシメタルヲ悲シムノデアリマス、即チ

勞働者ハ差別待遇醫療機關ニ片附ケラレテ、其ノ自尊心ヲ損セラレタルコトヲ不快トシ、事業家ハ其ノ罹病率ノ増加シタルコトヲ歎キ、醫師ハ此ノ變態患者ノ爲ニ開業醫制度ヲ紊亂セラレタルコトヲ歎ク、所謂三スクミノ狀態トナツタノデアリマス、併シナガラ私ハ元來如何ナル法案ニ付テモ一度立法部ヲ通過シ、御裁可ヲ仰ギ、實行ニ移リタル場合ニハ、出來得ルダケ當局者ヲ援助シ、圓滿ニ發達セシムベシトノ主義ヲ有スルモノデアリマスルガ故ニ、該法案實施後ハ當局者ノ爲ニモ幾分力ヲ致シ、又其ノ團體、契約者タル醫師會ヲシテ必ズ法規ヲ遵奉シテ誠實ニ運用スベキヲ戒告シタ者デアリマス、ソコデ數萬ノ開業醫師ハ正ニ犧牲的精神ヲ以テ從順ニ從事シテ今日ニ至ツタノデアリマス、然ルニ現時ノ社會ニハ運命ノ何モノタルヲ覺ラズ、分ニ安ンズルノ尊キモノタルヲ解セズ、漫リニ世ヲ呪ヒ、人ヲ呪フノ一派ガアリマシテ、常ニ不平不滿ヲ事トシ、詭激ノ言論ヲ弄シテ快哉ヲ叫ビ、甚ダシキハ社會組織ヲ破壞セムトスル者ナシトモ限ラレザル情勢デアリマス、其ノ餘波トシテ濫リニ相互ノ重職ニアスル所ノ醫師ヲ誹謗シ、若シクハ壓迫セントスルニ至リタル傾向アルコトハ眞ニ聖代ノ痛恨事デアリマス、此ノ機會ニ於テ此ノ壇上ヨリ一般公衆ノ醫師ニ對スル認識ヲ促シマスルコトハ、事如何ニモ一小事ナルガ如クナレドモ、我ガ國醫事衛生上ノ大問題トシテ決シテ輕々ニ看過スベカラザルモノデ

アルト信ズルノデアリマス、御承知ノ通り古來我ガ國ニ於ケル醫師ト患者ノ關係ハ、歐米諸國ノソレトハ全ク其ノ趣ヲ異ニシテ居リマス、都市山村ヲ問ハズ、何レノ地方ニ於キマシテモ、其ノ關係ハ恰モ親戚朋友ノ如キ美風ヲ存シ、醫師會規約ノ成立シタル後ニ於テモ多數ノ開業醫師ハ診察料、藥價、手術料等ニ付テモ、其ノ支拂不能者ニ對シテハ、官公署ノ命令ガアツタ譯デモナク、公共ノ依頼ガアツタ譯デモナシニ、醫師會ノ醫業報酬標準規程ト云フモノ迄モ破ッテ密カニ無制限ニ施療ラシテ居ルノデアリマス、此ノ醫業報酬標準規程ト云フノハ、藥價ヲ安クスルカラト云フコトヲ標榜シテ患者ヲ集メタリ、若シクハ望外ノ暴利ヲ貪ル者ヲ制裁スル爲ニ設ケテ居ル所ノモノデアリマス、前申ス通り別ニ官公署ノ命令ガアツタ譯デモナク、公共ノ依頼ガアツタ譯デモナイケレドモ、密カニ多數ノ施療ラシテ參ッテ來タノデアリマス、而シテ支拂可能者ヨリ徵收シタルモノヲ以テ、其ノ一部分ヲ補ヒ來ツタト云フコトガ實情デアリマス、又支拂可能者ニシテ支拂ノ義務ヲ履行セザル場合ニ於テモ、歐米諸國ノ醫師ノ如ク訴訟ヲ起スノ類ハ九牛ノ一毛ニモ達セザルモノデアリマス、甚ダシキハ入院料ヲ支拂ハザルノミナラズ、歸國ノ旅費マデモ貸與スルコトガ往々アルノデアリマス、尤モ醫師中ニモ稀ニハ他ノ社會ニ惡德者ガアル如ク、患者ニ不深切ナル者ガナイトハ申サレマセヌガ、大體ニ於テハ隣保相扶ノ觀念ヲ有スル

コトガ我ガ國醫師ノ傳統的良知トモ申スベキモノデアリマス、善事ヲ爲シテ之ヲ隱シテ居ルト云フコトガ隱功デアルト云フコトヲ知ツテ居ルノデアリマス、而シテ此ノ隱功ハ功ノ最モ大ナルモノデアルト云フコトヲ知ツテ居ルノデアリマス、此ノ知ツテ居ルコトガ即チ仁術ヲ守ツテ居ルト云フ意味ニ相成ルノデアリマス、古來我ガ國ニ「醫者ノオ禮ト谷間ノ花ハ取りニ行カレズサキ次第」ト云フ俗歌ノ存スル所以デアリマス、「醫者ノオ禮ト谷間ノ花ハ取りニ行カレズサキ次第」ト云フコトハ、此ノ俗歌ハ我ガ國ヨリ外ニハナイノデアリマス、他ノ數百數千ノ職業ニ付テ見マスルノニ、一家一人タリトモ無償ニテ物品ヲ與フル者ガアルデアリマセウカ、例ヘバ事件ニ付テ其ノ幾分タリトモ訴訟辯護ヲ頼ミマスル場合ニ於テ、無償デ訴訟ノ辯護ヲスル辯護士ガアルデアリマセウカ、無料ニテ法事ヲ營ンデ呉ル、坊主ガアルデアリマセウカ、一杯ノ汁粉、一杯ノ「コーヒ」ト雖モ無代ニテ飲マセル店ガアルデアラウカ、一粒ノ賣藥ト雖モ無代ニテ與フルノ賣藥店ガアルデアリマセウカ、入場料ナシニ見物サセル芝居、映畫館等ガアルデアリマセウカ、況ヤ最高科學者ニシテ、司命ノ職ニアル醫師ハ、日進醫學ニ遅レザラムガ爲ニハ、常ニ書籍、機械、研究室、設備等ニ人ノ知ラザル多額ノ費用ヲ要スルモノデアリマスカラ、現在ノ開業醫制度、即チ醫業報酬標準規程ハ我ガ國民性ト一致シテ作成シタルモノデアリ

マシテ、此ノ制度ヲ破壊セラレテハ、新刊ノ書籍、機械購入、研究設備等ヲ全ウスルコトガ出来ナイバカリデナク、醫師ノ生活マデモ脅カサル、ヤウナコトニナルノデアリマス、サウ云フコトニナルトナリマスレバ、醫術ハ漸次退歩スルト云フコトハ當然ノコトデアリマシテ、其ノ國民保健上ニ及ス影響ハ決シテ尠カラザルモノアルコトヲ知ラル、ノデアリマス、健康保險法實施後ニハ不知不識ノ間ニ開業醫制度ハ著シク紊亂セラレ、醫師ト患者トノ美風モ漸次菲薄トナリマシテ、醫者モ現金主義トナタル傾向ガアルノデアリマス、併シナガラ不思議ニモ醫師ノ隣保相扶ノ觀念ハ情性トシテ今尙全ク消失スルニ至ラザルモノデアリマシテ、其ノ證據ニハ過日私方諸方ノ醫師ニ種々問合セマシタ所ガ、其ノ多クハ支拂不能者ニハ密カニ施療シツ、アルコトハ依然トシテ舊ノ如キ狀況デアルトノ返答デアリマシタ、或一派ノ「パンフレット」ニ依リマスルト、日本人中醫者ノ治療ヲ得ズシテ死スル者ガ八十「プロセント」ト書イテアリマス、而シテ尙附加ヘテ、醫者ノ診察ヲ受クルノハ死亡診斷書ヲ書イテ貰フ時ダケデアル、詰リ死シデカラノオ醫者ノ治療デアルト云フヤウナコト迄書イテアリマス、是ハ餘リ世間ヲ知ラザルノ甚ダシキモノデアリマシテ、此ノ數字ノ現シ方ナドハ、往往官邊ニ於テモ認メタルヤウナコトヲ言テ居リマシタリ、又書イタリスルヤウナコトガアリマスガ、是ハ誠ニ不都合千萬ナコ

トデアリマシテ、延イテ國民ノ保健上容易ナラザル關係モアルト云フコトヲ私ハ憂フルノデアリマス、醫師ノ治療ヲ受ケズニ死スル者ガアルト云フコトニ付テハ、私ハ久シク調査致シテ居リマス、是ハ我が日本ニ於テハ殆ド無イコトデアリマシテ、日々ノ新聞紙上ニ見マシテモ、衣食ニ窮シテ餓死シタリ、衰弱シテ死シタリ、親子心中ヲシタリ、自殺シタリト云フヤウナモノハ頻繁ニ現レマスルケレドモ、醫者ノ治療ヲ得ズシテ斃レタト云フコトハ新聞紙上ニモ殆ド無イノデアリマス、是デ萬事ガ能ク分ルノデアリマス、又社會局ニ於キマシテハ、農家一戸當リガ一箇年二十五圓醫者ノ治療費ガ掛ルト云フコトヲ書イテアリマスルガ、是ガ醫業報酬規程ニ依ツテ支拂フトスレバ成程サウナルカモ知レマセヌケレドモ、斯クノ如ク二十五圓ト云フ勘定八十戸ニ一戸モナイノデアリマス、其ノ他ノ者ハ多クハ盆暮ニ三圓トカ五圓トカ包シテ持ッテ來ル、或ハ大根、人蔘、蕎麥ト云フヤウナモノデ御禮ヲ濟マシテ居ル所ガ隨分農村漁村ナドニハ多イノデアリマス、私ハ是ハ三十年來調べテ居リマスルガ、斯ウ云フ狀況ニアルノデアリマス、世間ハ千人ノ醫者ノ中ニ一二二人ノ者ガ國情、國民性ヲ洞察スルノ明ナク、傳統的、美風ヲ忘レテ、利慾ニ溺レテ暴利ヲ貪ル者、若シクハ貧者ニ對シテハ往診シナイト云フヤウナ不深切者アルヲ見マシテ一般醫界ヲ律スルト云フコトハ餘リニモ認識ノ狹隘ニシテ、曲解ノ甚ダシキモノアルニ驚カザル

ヲ得ナイノデアリマス、若シ敍上ノ行爲ガ行ハレナイトシタナラバ、私ハ微力ナガラ全國六萬ノ醫師ニ相談致シマシテ、是非ハ此ノ美風ハ還元シナケレバナラスト云フコトヲ申入レ、又ソレガ必ズ力アルモノト自ラハ信ジテ居ルノデアリマス、一方又醫師會ニ於テモ不正ノ醫者ノ現レタル場合ニ於キマシテハ、官省ノ手數ヲ煩ハス迄モナク、嚴重ナル制裁ヲ加ヘルコトガ最モ必要ナコトデアリマシテ、是ハ私ガ屢、醫師會ニ戒告シタコトデアリマス、其ノ嚴重ナル制裁ニ對シテ優柔不斷ナルコトノアリマス爲ニ、爲政家及一般公衆ヨリ幾分ノ誤解ヲ受クルノ原因トナルノデハナカラウカト心配シテ居ルノデアリマス、苟モ社會立法ヲ案出セムトスル者ハ能ク敍上ノ情勢ヲ認識スルコトガ緊要デハアルマイカト思フノデアリマス、元個人主義ナル歐米諸國ノ民族性ト隣保相扶主義ノ民族性ナル我が國ト同一視シタルコトガ、歐米模倣ノ勞働健康保險法ノ實施トナリタルモノデアリマシテ、却テ我が善美ナル隣保相扶主義ヲ個人主義ニ誘引致シタルコトハナカッタカト云フヤウナコトヲ思ハル、ノデアリマス、物ニハ緩急アリ、利害アリ、損失アリ、如何ニ社會立法ダカラトテ「ゴースト」ノ信號ヲ無視シテ猛進致シマスレバ、必ズ各方面ノ摩擦衝突ヲ惹起スルコトハ當然ノコトデアリマシテ、元社會ノ摩擦衝突ヲ緩和調和スル等ノ社會立法ノ旨趣ニ反スルコトハ申ス迄モナイコトデアラウト思ヒマス、社會局ト醫

師會トハ其ノ當初ヨリ引續キ摩擦ヲ繼續シ、勞働者、事業家等モ亦満足スルモノデハナイト云フコトガ、ドウモマダ斯ウ云フ立法ハ早カッタノデハナイカト云フヤウナ感ジモ致シマス、内務大臣ハ衆議院ノ一議員ノ質問ニ對シ、勞働健康保險法ハ相當ノ效果ヲ收メテ居ルト云フコトノ御答辯デアリマシタ、當事者トシテハ、サウ言ハナケレバナラスコトデアリマセウケレドモ、實際ニ於テハマダ満足スベキ狀態ガ少シモ現レテ居ラナイノデアリマス、ソコニ相當ノ效果ト言ハレタルコトハ、内務大臣ニ於テモ完全ナル效果ト云フコトハ仰シヤリニクカッタモノト推察致サレマス、又衆議院議員ニ於ケル或一派ノ如ク、社會立法ト名ノ付クモノナラ何事デモ賛成ダト云フガ如キ自由主義者ノ説ニ共鳴スルガ如キコトガアツタナラバ、百害アツテ一利ナキモノタルコトヲ知ラナケレバナリマセヌ、世人ハ動モスレバ社會局ヲ誤解シテ、醫師征伐ノ本陣デアリ、唯濫リニ新規ナル政策ノ試驗所ナリト稱スルモノガアリマスルガ、私ハ社會局ノ方々ヲ能ク知ッテ居リマスルケレドモ、此ノ世間ノ評判ダケハ信ジマセヌ、社會局ハ新進氣鋭ノ多士濟々タルモノデアリマス、常ニ新シキヲ求メテ邁進シ、適切ナ善政良策ヲ發見シテ國民利福ニ資セムトスルノ熱情燃ユルガ如キモノガアリマス、其ノ熱情燃ユルガ如キモノアリマスル爲ニ、時トシテハ奔馬逸スルノ感ナキニ非ズト私ハ常ニ考ヘテ居リマス、斯ク申ス私ナドモ若イ時、今ヨ

リ四十六年前ニハ、「ドイツ」ニ居リマスル時ニ、後藤新平「ドクトル」ト「ドイツ」ノ各種ノコトヲ調べテ居タ時代デアリマスルガ、「ドイツ」ノ「フランケンカッセ」ト云フモノヲ見マシテ、是ハ非常ニ宜シイ、是ハ一ツ日本ニ實行シヨウデヤナイカト云フヤウナコトデ、歸朝後、明治二十五年頃デアリマス、私ガソレヲ翻譯致シマシテ、後藤「ドクトル」、後ノ後藤伯爵デアリマス、此ノ人ガ案ヲ立テ、何處カヘ提出シタノデアリマス、ソレガ老練ナル大政治家ニ叱ラレタ、此ノ日本ノ國情、國民性ヲ歐米諸國ト同ジニ見テ居ルカ、馬鹿ナ奴ダト言ハレテ、大變態シテ居タノデアリマスガ、我々モ亦若イ時ニハ斯ナ考モアッタノデアリマス、社會局ノ新進氣鋭ノ人モ漸次年ヲ取ツテ來マスレバ、是等ノ御考モ付クデアラウト思フノデアリマス、前申ス通り、近頃官吏及其黨派ノ一部ニハ濫リニ醫師ヲ誹謗スル者ガアル、斯ウ云フコトヲ私ハ見聞シテ居リマスルガ、「イタリ」ノ「ウチツ」博士ノ書イタモノニ依リマスルト、醫者ヲ誹謗スル者ノ大部分ハ、既往ニ於テ醫者ニ報酬ノ責務ヲ果サザル者ニ限ルト云フコトガ書イデアリマスガ、果シテ然リトスレバ醫師程迷惑ナル者ハナイノデアリマス、拂ハレナイ上ニ誹謗サレル、此ノ位割ノ惡イモノハナイノデアリマス、日本ニハサウ云フコトハナカラウケレドモ、是モ亦多少考慮スベキ事柄デハナイカト思ヒマス、斯ク申シマスルケレドモ、併シナガラ社會情勢ノ

變遷ハ、現今ノ開業醫師制度ガ永久ニ保持シ得ラレルモノトノミハ考ヘテ居リマセヌ、醫師會ハ何時カハ衛生局、社會局等ト熟議ヲ遂ゲ、内務大臣監督ノ下ニ、時勢ト國情トニ合致シタルヤウナ醫業制度ヲ拵ヘナケレバナラマイト私ハ思ヒマス、又醫師ニ於キマシテモ反省スベキハ大イニ反省シ、爲政家ヲ援ケテ國民福利ヲ主眼トシテ努力スルノ覺悟ガナケレバナラヌト思ヒマス、私ガ醫學者デアアルガ爲ニ、右ノヤウニ醫師ヲ庇護スルト云フコトノ誤解ダケハ御免ヲ蒙リマス、サウ云フ意思ハ毛頭モナク、聊カ高處、大處ヨリ實情ヲ申述ベテ、一般公衆ノ醫師ニ對スル認識ヲ正確ニシ、今後醫事衛生ニ關スル社會立法ノ運用上、當局者ノ御考慮ヲ煩ハシタイト希フ迄ノコトデアリマス、尙私ハ折角ノ社會立法ガ一步過レバ異端主義ニ引摺ラレル傾向ガアリハセスカト云フコトヲ近來憂ヘテ居ル者デアリマス、爲政家、若シクハ天下ノ指導者タルベキモノハ時ノ勢ヲ察スルコトガ緊要デアルト思ヒマス、古人モ「勢ハ猶ホ水ノ如キナリ」洵々ニ始マツテ漸々ニ積ミ以テ汗漫澎湃一決シテ去ルニ至レバ則チ防ダニ千里ノ堤ヲ以テスルモ亦禦ゲベカラザルナリト言ッテ居リマス、近クハ尾去澤ノ鑛山ニ其ノ一大悲慘ノ實例ヲ示シテ居ル通りノ次第デアリマス、異端主義者ノ如キモ亦涓々漸々ノ時ニ細心注意シテ之ガ防禦ニ努ムルコトガナカツタラバ、其ノ汗漫澎湃容易ニ禦ゲベカラザルニ至ルコトハ火ヲ賭ルヨリモ瞭カナルコ

トト思フノデアリマス、官民トモニ其ノ緩急利害ヲモ顧慮スルコトナク、濫リニ社會立法ノ名ニ眩惑、盲信スルガ如キコトガアツテハ前途頗ル憂フベキ事柄ヲ出來シナイカト云フコトヲ私ハ杞憂スルモノデアリマス、擬是ヨリ愈、本論ニ入ル譯デアリマス、只今上程ニナリマシタル國民健康保險法案ハ既ニ實施セラレツ、アル勞働健康保險法案ニ比ベマスレバ、其ノ異ナル點ハ被保險者トナルモノノ數ヲ著シク擴張シタルコト、營利ヲ目的トセザル社團法人ガ監督官廳ノ許可ヲ受ケテ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコトヲ得ルコトト、醫師會トノ團體契約ヲ法文化セザルコト等ノ相違アルヤウニ思ヒマスルガ、其ノ被保險者ノ數ヲ著シク擴張シタルコトハ、開業醫師ニ對スル著シク迫害トナルベキハ當然ノコトデアリマスルケレドモ、醫療能率増進ト國民ノ健康向上ヲ目的トスルノ趣旨ヨリ申シマスレバ、開業醫師モ亦必ズ其ノ犠牲トナルベキ覺悟アルモノトハ信ジマスルケレドモ、産業組合ナルモノヲシテヤトラニ醫療行為ヲ營マシメルト云フコトハ、國民保健ノ上ヨリ言フモ、開業醫師制度紊亂ノ上ヨリ言フモ、其ノ職業上ノ障害ハ別トシテ科學者ノ立場トシテ默々ニ看過シ得ベカラザルハ當然ノコトデアリマシテ、今後産業組合ノヤウナモノガ醫療機關ヲ設クルト云フヤウナコトガ續出スルコト云フコトニ相成リマスレバ、被保險者ノ昏迷ト不便トモ亦豫想シナケレバナラヌコトデアリマス、社會上

最モ緊密ニシテ最モ至難ナル醫療機關ノ運轉ヲ、田畑ノ耕耘、養蠶、酒造リ、醬油造リト云フヤウナモノト同一視スルノ無謀ニハ驚カザルヲ得ヌデアリマス、幸ニ衆議院ノ修正ニ於テ、第九條ノ削除セラレタルコトハ幾分緩和セラレタルノ觀ガアリマスルケレドモ、是迄許可シタルモノハ已ムヲ得ズトシテ、今後一切醫師以外ニ醫療機關ヲ許可セヌノガ常識デアラウト思ヒマス、又醫師會トノ團體契約ヲ法文化スルコトニ付テハ、一小部分ノ被保險者ヲ有スル勞働健康保險法ニ於テスラ之ヲ法文ニ明記シタルニ、其ノ數百倍數千倍ニモ達スベキ國民健康保險法ニ於テハ、愈、益、醫師會ト鞏固ナル團體契約ヲ爲スベキ筈ナルニ、之ヲ除キタルハ産業組合トノ關係等ヲ顧慮スル爲デアラウト思ヒマスルケレドモ、國民健康向上ノ目的ヨリ見テ甚ダ疑問ナキ能ハズデアリマス、實ハ此ノ國民健康保險法調査會、是ハ私ガ委員長トシテ決定シタルモノデアリマシテ、是等ノコトニ付テ彼此論議致シマスルコトハ頗ル心苦シキコトデアリマスルケレドモ、實ハ委員會決定シタル後ニ、第九條ト云フモノハ委員長ニ挨拶モナシニ入レタル事柄デアリマス、其ノ入レタル事柄ハ不都合デアルト思ツケレドモ、ソレヲ又政府ハ衆議院デ削除サレタ、折角苦心慘澹隱シテ入レタモノヲ削除サレテモ默ッテ居ルト云フコトガドウ云フ意味デア

ルカ、ソレガ私ニハ今日迄サッパリ解ラナイ、頗ル奇怪事ト考ヘテ居ルノデアアル、今

日御伺スルコトハ、斯クノ如キ各種ノ變態
ガ此ノ案ノ中ニ現レタルガ爲デアリマシテ、
其ノ點ハ内務大臣ニ於テモ御了承ノ上御答
ヲ願ヒタイノデアリマス、ソコ拙者ノ伺
ヒタキコトヲ摘要シテ見マスレバ、第一ニ
内務大臣ハ既ニ實施シツ、アル労働健康保
險法ガ豫期ノ效果ヲ擧ゲ居ルト思ハル、カ、
或ハ尙改善ヲ要スル點アリト思ハル、カト
云フコトデアリマス、第二ニ何故ニ醫師會
トノ團體契約ヲ法文化スルコトニ躊躇ナサ
ルカト云フコトデアリマス、第三ニハ産業
組合法第一條ニ、組合員ノ産業又ハ其ノ經
濟ノ發達ヲ企圖スルガ目的デアルト書イテ
アリマス、ソレニ依ッテ見マスルト、産業
組合ナルモノハ産業經濟ニ全力ヲ注ギ、其
ノ發達ヲ企圖スベキ使命アリト思ヒマス、
此ノ重大ノ使命ヲ有スルモノニ見當違ヒノ
醫療機關マデモ設置セシムルコトハ百害アッ
テ一利ナシト考ヘルノデアリマス、此ノ點
ニ付テドウ云フ御考デアリマスルカ、醫師
ノ機關ト云フモノハ他ノモノトハ違ヒマシ
テ容易ナコトデアリマセヌ、村長ノ理事
長ナドガ醫業ヲ營ムト云フヤウナコトハ、
細カク言ヘバ非常ナ事柄ガアリマスルガ、
一口ニ言ヘバ非常ナ弊害ガソコニ起ッテ來
ルコトハ分リ切ツタ話デアリマス、醫者ノ事
ト云フモノハ他ノ事トハ違ッテ非常ニムジ
カシイモノデアル、私ガ中央金庫ノ理事長
ニナルト云フコトハ決シテ私ハムヅカシイ
トハ思ハナイ、有馬伯爵ニ病院長ヲシロト
言ツタラ是ハトモムヅカシイ、是ガ一例デ

アリマス、第四、社會局ト醫師會トノ摩擦
ハ不斷ノ行事ナルコト天下周知ノ事實デア
ル、元來國民生活ノ安定ト社會平和ノ確保
ヲ標榜シテ施行シタル健康保險ガ其ノ立法
者ト其ノ事業ニ最モ樞要ナル醫師會トノ間
サヘ調査ガ出來ズシテ、其ノ生活安定ニ苦
慮セシメテ交互ノ平和ヲ保ツ能ハザルヤウ
ナコトヲ續ケテ居ッテ、如何ニ國民生活ノ安
定ト、社會平和ノ確保トヲ期スルコトガ出
來ルデアリマセウカ、此ノ點ニ付テ御高見
ヲ伺ヒタイ、第五、此ノ案ハ申ス迄モナク
醫藥ノ負擔ニ堪ヘザル者ヲ助ケルノガ目的
デアラウト思ヒマスルガ、完全ニ保險料支
出ノ出來ル者ハ組合ノ醫療機關ニ依ラザル
モ治療ヲ受ケルノ力アル者デアッテ、又此ノ
恩典ニ與ルベキ程度ノ者ハ必ズ保險料金ヲ
納メ得ザル階級ノ者デアルト思ハル、ガ、
是ニテモ醫療普及ノ目的ヲ障害ナク達シ得
ラル、デアラウカト云フコトデアリマス、
第六ハ附則ノ本年三月三十一日現存ノ醫療
事業ヲ行フ組合ノ代行スル數ヲ出來得ル限
リ減少スルコトガ妥當ナリト思フガ如何ト
云フノデアリマス、第七ニ醫師會ノ團體契
約權ヲ省令竝ニ地方官ニ通牒ノコトハ出來
ルダケ遺漏ナクナサル、御意思デアルカ、
是ハ是非サウシナケレバナラヌト思フノデ
アリマス、ソレニ付テノ御高見ヲ伺ヒマス、
尙時間ノ節約上御答辯ガアリマシテモ、別
ニ反問ハ致サスト云フコトヲ申上ガテ置キ
マスカラ、ドウカ御腹藏ナクオ五ノ間デス
カラ、御深切ニ御答辯ヲ御願ヒ申シマス

〔國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(河原田稼吉君) 只今金杉博士
カラ七項目ニ互ル御質問ガゴザイマシタ
ガ、其ノ前提トシテ種々ナル御經驗ノ深イ
御老巧ナル立場カラノ御意見、御注意ガ
アツタノデアリマスガ、誠ニ私共ハ其ノ點ニ
付キマシテ十分ニ考慮ヲ重ネタイト思ヒマ
スルガ、多少博士ノ御所見ト異ニスル點ガ
アリマスルノデ、先ヅ各項目ニ御答ヲ致シ
マスル前提トシテ、私共ノ所見ノ一端ヲ申
上ガテ置キタイト思ヒマス、第一ニ博士ノ
御意見トシテハ我が國ノ國情、或ハ社會情
勢カラ見テ、社會立法ノ制定ニ付テハ十分
ノ注意ヲ加ヘル必要アリ、殊ニ今回提案ニ
ナリマシタ國民健康保險法ニ付テハ聊カ尙
早ノ嫌ハナイノデハナイカト、斯ウ云フ風
ナ御意見ガアリマシタヤウデアリマス、是
等ニ付キマシテハ私共ノ考ヘ方ヲ聊カ開陳
致シタイト思ヒマス、私ガ申ス迄モナク今
日國民生活ト云フモノハ、或ハ經濟界ノ變
遷或ハ社會上種々ナル重壓ノ結果ト致シマ
シテ、段々ト此ノ庶民階級ニ於ケル生活ト
云フモノガ餘程困難ヲ加ヘツ、アルト云フ
コトハ、是ハ私ガ申ス迄モナイト思ヒマス、
而シテ一定ノ財産ヲ持ッテ居ルトカ、或ハ相
當ノ收入ノ決ッテ居ルト云フ者ハ兎モ角ト
致シマシテ、辛ウジテ其ノ日其ノ日ノ生活ヲ
送り、家族ヲ養フテ居ルト云フヤウナ者ニ於
キマシテハ、一番頭ヲ悩マスノハ何カト云
フト、其ノ業ヲ失フト云フコトト、且ソレ
以上ニ心配ニナリマスルノハ、自分若シク

ハ家族ガ病氣ニナツタ時ドウシタラ宜カラ
ウカ、斯ウ云フ所ニ私ハ歸著スルト思フノ
デアリマス、一度……ヤット其ノ糊口ヲ致シ
テ居リマシテモ、若シ自分ナリ、或ハ家族
ガ病氣ニナツタ時ハドウシタラ宜カラウカ、
斯ウ云フヤウナコトヲ想ヒ到リマス云フ
ト、實ニ其ノ生活ト云フモノハ暗澹トシテ
生活ノ樂シミト云フモノヲ失フト云フコト
ハ私ガ此處ニ縷々申ス迄モナイト思ヒマ
ス、從ヒマシテセメテ國家トシテハ是等ノ
者ノ最小限度ノ生活安定、即チ病氣ニナツ
時先ヅ……心配セズニオ醫者ニ掛レ、藥ガ
飲マレルト云フコトヲ考ヘテヤルト云フコ
トハ、國家トシテ社會立法ノ最小限度デア
ラウト斯ウ考ヘルノデアリマス、デ今日或
ハ是等ノ要求ガ普及シテ居ラスノデハナイ
カト云フヤウナ御話モゴザイマシタケレド
モ、是ハ博士ノ御所見モサウ云フ風ニ御見
ニナルノモノツカモ知レマセヌガ、併シ私
共ノ耳ニ入り目ニ見マス所ハ、ナカ……此
ノ點ニ付テノ要求ガ熾烈デアリマス、先程御
引例ニナリマシタヤウニ、農村ニ於キマスル
負債、若シクハ困窮ノ重要ナル原因トシテ、
此ノ醫療費ノ負擔ト云フモノガ數ハラレテ
居ルノデアリマス、殆ド是ハ統計デアリマ
スルガ、一年約一家ニ付テ二十五六圓ノ
醫療費ト云フモノガ統計ニ現レテ來ル、今
日ニ於キマシテ農漁山村ニ於ケル所謂庶民
階級以下ノ者ニ於ケル、是等ノ負擔ト云フ
モノハ可ナリナ生活上ノ重壓ニナルト云フコ
トハ、私ガ縷々申述べル迄モナイト思フノデ

アリマス、且又都市ニ於キマシテモ、庶民階級以下ノ者、是等ノ者ニ付キマシテモ非常ニ醫療費ノ負擔、病氣ニナッタラドウシタラ宜カラウカト云フ心配ト云フモノハ、絶エズ其ノ腦裡ヲ往來シテ居ル一ツノ重大ナル事項デアルト見受ケラレルノデアリマス、是ハ此處デ申上ゲルノハ如何カト思ヒマスルガ、過日私ハ衆議院ノ此ノ委員會ニ於テモ申述ベタノデアリマスガ、丁度其ノ委員會ノ前ノ日ニ私ノ所ニ或來客ガアリマシテ、其ノ人ガ申シマスノニハ、今自分ハ圓「タク」ニ乗ッテ來タ、所ガ圓「タク」ノ運轉手ガ言フニハ、一體此ノ國民健康保險法ト云フモノハドウナッタノガラウカ、是ハ新聞紙上デ可ナリ議論ガアツクコトヲ見テ居ッタモノト見エマシテ、アレガ出來レバ自分等ハ直グヤリタイ、ドウシテ早く進行シナイノデアラウカト云フコトデ、自分ニ聽カレタト云フコトデ、私ニ話シテ呉レマシタ、是等ヲ見マシテモ、人知レズ、即チ大キナ聲ヲ擧ゲ得ザル方面ニ於テ如何ニ此ノ要求ノ熾烈デアルカト云フコトノ一例ニナルノデアリマス、私ハ斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス、現在斯ウ云フ風ナ庶民階級以下ノ人々ハ、成程其ノ數ハ非常ニ多イノデアリマスガ、所謂七千萬國民、九千萬國民ノ大部分ヲ占メテ居ルモノデアリマスルケレドモ、併シ是等ノ人々ト云フモノハ所謂烏合ノ衆デアリマシテ、或ハ政治上社會上ニ其ノ發言ト云フモノガ一團トナッテ有力ニ働カナイデ、其ノ外ノ政治上或ハ社會

上ニ於ケル勢力ノアル團體ト云フモノハ、數ガ少クテモ其ノ空氣ト云フモノガ有力ニ反映スルト云フコトハ、是ハ私ガ申ス迄モナイコトデアリマシテ、或意味ニ於テ是等ハ所謂聲ヲ擧ゲ得ザル人々ノ考デアリマシテ、是等ハ將來、政府ハ固ヨリ所謂政治家ト云フ方々ハ是等ノ點ニ付テ十分ナル想ヲ回ラスコトガ必要デハナイカト、斯ウ云フ風ニ私ハ思フノデアリマス、併シナガラ社會立法ト云フモノハ社會組織ヲ何處マデモ根柢ニシテ、社會組織ニ急激ナル變更ヲ與ヘズシテ改善ヲ加ヘテ行クト云フコトガ最も必要ナコトデアアルコトハ、金杉博士ノ仰セラレタ通りデアアルト思ヒマス、デアリマスルカラ、本法制定施行ニ當リマシテモ、此ノ點ニ付キマシテハ、矢張り政府トシテハ十分ナル考慮ヲ加ヘナケレバナラスト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、成ルベク世ノ中ガ摩擦ヲ避ケテ圓滿ニ改善ニ向フト云フコトハ、是ハ萬人ノ希望スル所デアリマシテ、政府ト雖モ固ヨリ當然ノコトト思フノデアリマス、デアリマスルガ、併シナガラ總テノ摩擦ヲ避ケテ行クト云フコトハ結局改善ガ行ハレスト云フコトニ往々ナリ勝チデアアルノデアリマスルカラ、其ノ摩擦ヲ成ルベク避ケテ、サウシテ出來ルダケ一步ヅツ改善ヲ加ヘ、國民生活ノ安定ヲ圖ッテ行クト云フコトガ必要デハナイカト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、故ニ本法制定ニ付キマシテモ、我が國ニ於ケル醫療制度ノ根本ト云フモノハ、只今博士ノ仰セラレ

マシタ通り、所謂開業醫制度ト云フコトガ數百年ノ傳統デアリマシテ、且又我が國ニ於ケル開業醫ノ諸君ノ功績ト云フモノハ、是ハ又社會トシテ非常ニ感謝ヲシナケレバナラス所デアリマス、所謂醫ハ仁術デアッテ、只今仰セニナリマシタヤウニ隣保相助ノ觀念ニ依ッテ、或ハ實際ニ於ケル救療トカ或ハ深切ナル醫療ト云フコトガ我が國ニ於テ行ハレテ居タト云フコトハ、是ハ開業醫諸君ノ功績デアアル、我が國ニ於ケル特殊ノ制度デアッテ、是ハ矢張り將來ト雖モ、此ノ醫療ノ根本基礎制度トシテ維持シ、其ノ適當ナル發達ヲ圖ルト云フコトハ固ヨリ必要ト思フノデアリマス、デアリマスルカラ是等ノ制度ニ對シテ急激ナル變革ヲ起サズシテ、出來ルダケ是等トノ摩擦ヲ避ケテ、サウシテ一般庶民階級ノ幸福ヲ圖ッテ行クト云フコトガ本法制定ノ根本趣旨デアアルノデアリマス、是等ヲ前提ト致シマシテ、私ハ只今御質問ニナリマシタ事項ニ付テ御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ現在施行シテ居リマスル所ノ工場鑛山等ニ於ケル労働者ノ保險、是ハ其ノ成績ガ良ク行ッテ居ルカドウカト、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、是ハ私ガ申ス迄モナク、現在工場鑛山ノ従業員ト云フモノハ約三百萬ニ及ンデ居リマスルガ、是等ニ對シテ、成ルベク其ノ醫療ト云フモノニ付キマシテ、將來改善ノ餘地ノ多ナルコトモアリマセウ、又現在ニ於キマシテ、博士ノ御述ニナリマシタヤウニ、ソレガ爲ニ或ハ濫療……醫療ヲ濫リニ

要求スルヤウナ弊害トカ、或ハ又畫一ニ流レルガ爲ニ醫療ガ十分デナイト云フヤウナ色々ノ缺點ハ固ヨリ認メザラ得ナイノデアリマスルガ、大局ニ於テ少クモ此ノ産業ニ從事スル三百萬ノ從業者ト云フモノハ、此ノ恩惠ヲ受ケテ、例ヘバ工場ニ於テ怪我ヲスルトカ、或ハ病氣ニナルトカ、斯ウ云フ風ナ場合ニ安心シテ其ノ醫療ガ出來ルト云フコトハ、是ハ大キナ功績デアラウト、斯ウ云フ風ニ私ハ思フノデアリマス、私ガ申ス迄モナク、産業發達ノ蔭ニ、産業振興ノ裏ニ多數ノ從業員ノ犠牲ト云フモノヲ考ヘナケレバナラス、私ガ申ス迄モナク昔ノ工業組織ト違ヒマシテ、所謂大工業、大工場、大産業組織ニナリマスルト、其處ニ澤山ノ犠牲者ガ生ズル虞ガアル、或ハ負傷、或ハ工場、鑛山ニ於テ其ノ事業ノ爲ニ起ル所ノ疾病トカ云フヤウナ、産業上ノ各種ノ犠牲ト云フモノガ現レテ來ルノデアリマスルカラ、是等ニ付テ大局のニ於テ國家ガ或制度ヲ考ヘテ行クト云フコトハ、工業産業ノ發達ト共ニ必要ナコトト思フノデアリマス、固ヨリ隣保相助ト云フコトハ我が國ノ美風トシテ、何處迄モ保持シテ行カナケレバナラスモノデアリマスルケレドモ、併シナガラ一方ニ於テ、産業組織ガ所謂歐米的大企業ニナリマスルト云フト、矢張り其ノ大企業ニ基イタ社會立法若シクハ多數從業者ノ福利ヲ考ヘルト云フ制度ヲ立テテ行カナケレバナナイノデアリマシテ、私ハ大體ニ於テ、矢張り此ノ從來ノ勞働保險制度

ト云フモノハ、多數ノ従業員ヲシテ安心シテ此ノ事業ニ従事スル、勞働ニ従事シ得ルト云フ安心ヲ與ヘテ居ル點ニ於テ重大ナル功績ヲ擧ゲテ居ルト云フ點ニ思フノデアリマス、唯其ノ種々ナル點ニ付テハ、將來十分ナル考究ヲ加ヘテ、其ノ改善ヲ圖ツテ行カナケレバナラス、是ハ申ス迄モナイコトト思フノデアリマス、第二ニ何ガ故ニ醫師會トノ團體契約ヲ法文化スルニ躊躇スルカト斯ウ云フ御尋デアリマシタ、是ハ御承知ノ通り現在行ハレテ居リマスル工場、鑛山ノ勞働者ヲ目標ト致シマスル勞働保險ニ於キマシテ、是亦大體ニ於テ醫師會トノ間ノ團體契約ト云フモノガ行ハレテ居ルコトハ、私ガ申ス迄モアリマセス、デアリマスルカラ私共即チ政府ト致シマシテハ、團體契約ソレ自體ニ決シテ反對ハシナイノデアリマス、且又先程來申上ゲマスルヤウニ、開業醫師會ト云フモノハ我が國ニ於ケル醫療組織ノ根本デアツテ、開業醫師ノ集合デアリマスル醫師會ト云フモノハ、又之ヲ尊重シナケレバナライ、開業醫師ノ功績ヲ相當社會トシテ認メナケレバナラスノデアリマスルト共ニ、醫師會ノ社會衛生ニ對スル功績ヲ認メナケレバナラス、而シテ醫師選擇ノ自由ヲ與ヘルガ爲ニハ自ラソコニ團體契約ト云フモノガ行ハレルト云フコトハ、今日ノ實情ニ於テハ自然デアラウト思フノデアリマス、デアリマスルカラ政府トシテハ決シテ此ノ團體契約ガ絕對ニイカヌ、團體契約ハ禁止スベキモノ、若シクハ之ヲ妨害スベキ

モノナリトカ云フ考ハ決シテ持タヌノデアリマス、自然ト團體契約ハ行ハレルノデアラウト云フ寧ろ豫想ヲ持ツテ居ル位ノモノデアリマス、サリナガラ之ヲ法文ニ規定シテ、國民健康保險組合ハ必ズ此ノ醫師會ト團體契約ヲ結バナケレバナラスト云フコトヲ、法規ヲ以テ強制スルト云フコトハ重大ナル事件デアリマシテ、直チニ輕々ニ贊同スル譯ニハ行カヌノデアリマス、私ガ申ス迄モナク、我が國ニ於キマスル法文ノ原則ハ民法、商法等ヲ通ジテモ、所謂契約自由ノ原則ト云フモノガ行ハレテ居ル、之ニ對シテ例外ヲ設ケルト云フコトハ非常ニ重大ナル何等カノ理由ガナケレバナラス、尙私ガ申ス迄モナク此ノ醫師會ト云フモノハ、其ノ必要ヲ認メマシテ國家カラ醫師法ニ依ツテ重大ナル權能ヲ與ヘラレテ居ルノデアリマス、例ヘバ或一定ノ地域ニ於ケル開業醫師ト云フモノハ、必ズ醫師會ニ入ラナケレバナラス、或ハ其ノ規約ニ違反シタル者ニハ重大ナル處罰ノ制裁ノ權能ヲ與ヘラレテ居ル、或ハ更ニ其ノ地方ニ於ケル醫療ノ代金ノ公定ノ權限マデモ持ツテ居ルト云フヤウナ、重大ナル權能ガ與ヘラレテ居ル、此ノ團體ニ更ニ必ズ此ノ團體ト契約ヲシナケレバナラスト云フヤウナ、國家ガ更ニモウツ重大ナル權能ヲ與ヘルト云フコトハ、是ハ直チニ贊成スルコトガ出來ナイ、團體契約ヲスルコトニハ少シモ異存ハナイノデアリマスルガ、國家ガ法規ヲ制定シテ、必ズ此ノ醫師會ト云フモノト團體契約ヲシナケレバ

ナラスト云フコトヲ、強制スルト云フコトニハ、政府ハ贊成致シ兼ねルノデアリマス、第三ニ、産業組合、所謂第九條ノ問題ト致シマシテ、産業組合デアリマスルモノガ醫療ヲヤルト云フコトハ適當デナイデハナイカ、斯ウ云フ御話デゴザイマシタ、第九條ハ所謂公益ヲ目的トスル、營利ヲ目的トセザル社團、斯ウ云フコトヲ規定シテ居リマスルガ、是ハ大體ニ於テ、所謂今日行ハレテ居リマス醫療組合ヲ指シテ居ルコトハ只今仰セノ通りデアリマス、唯是ハ法文ノ上ニ於キマシテ、所謂政府ト致シマシテハ、若シクハ私共トシテハ必ズシモ法文ノ重大ナル事項トハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、此ノ國民健康保險法ハ、所謂國民健康保險組合ト云フモノヲ骨子ト致シマシテ、ソレヲ中心ニシテ庶民階級ノ醫療ノ完全ヲ期スルト、斯ウ云フ所ニアルノデアリマスルカラ、此ノ國民健康保險組合ノ發達ヲ助長シ、且其ノ發達ヲ希望スルノデアリマスルガ、一面ニ於キマシテ所謂經濟的發達ヲ目的ト致シマスル産業組合ニ於テ、醫療ヲ實行スルコトヲ獎勵助長スルト云フ意思ハ少シモナイノデアリマス、唯現在産業組合法ニ依リマシテ、醫療ヲ實行シテ居ル組合ガアル、斯ウ云フモノノニ中於テ成績ガ良好デアリ、且又將來ト雖モ其ノ成績良好ヲ維持シ得ルヤウナモノガアリマスルナラバ、ソコヘ改メテ國民健康保險組合ヲ作ラスデモ、ソレニ代ラシテモ宜イデハナイカ、斯ウ云フ程度ニ過ギナイノデアリマス

カラ、之ニ依ツテ醫療組合ノ發達助長ヲ期スルト云フ考ハ少シモナイノデアリマス、根本ハドコ迄モ國民健康保險組合ト云フモノヲ中心ニ致シテ、之ニ依ツテ庶民階級ノ醫療ノ普及ヲ期シタイ、斯ウ云フ次第デアリマス、第四ニ此ノ社會立法、其ノ他社會保險ヲ扱ヒマス所ノ社會局ト醫師會トノ摩擦ヲ能ク考ヘナケレバナラスト、斯ウ云フヤウナ御意見デゴザイマシタ、是ハ私ガ申ス迄モナク、社會局ト云ヒ、衛生局ト申シマシテモ、是ハ結局ハ內務大臣ノ補助機關ニ過ギナイノデアリマスカラ、內務大臣ニ於テ十分ニ其ノ點ヲ考慮シテ行クト云フコトデ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、唯ソレソレ其ノ擔任ノ部局ニ於キマシテハ、ソレソレ其ノ擔任ノ事務ニ付テ常ニ熱心デアレバキ次第デアリマスルカラ、時ニハ意見ノ扞格ヲ起シ、或ハ議論ノ相違ヲ來スト云フコトハ、是ハ又已ムヲ得ナイコトデアリマスルガ、結局ハ申ス迄モナク內務大臣ノ補助機關デアリマスルノデ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ內務大臣ニ於テ責任ヲ持ツ、斯ウ云フ次第ニ相成リマスル譯デアリマス、是ハ私ガ申ス迄モナイコトト考ヘマス、第五ニ、醫藥ノ負擔ニ堪ヘザル者……此ノ國民健康保險組合ト云フモノハ、醫療費ヲ支出シ得ル者ハ此ノ組合員外ノモノデアリ、從ツテ醫療費ヲ負擔シ得ザル者ヲ以テ組合ヲ組織スルト云フコトニナルガ爲ニ、從ツテ組合ト云フモノノ存立維持ヲ阻害スルヤウニナルノデハナイカ、斯ウ云フ風ナ

御尋ト拜承致シマシタ、是ハ御述ニナリマシタヤウニ、大體ニ於テ庶民階級ノ醫療ヲ目的トスル、斯ウ云フ所ニアルノデアリマスルカラ、自力ヲ以テ醫療ヲ受ケ得ル者ハ固ヨリ此ノ組合員外デアリマス、唯特殊ノ例外ハアリマスルガ、大體ニ於テサウ云フ趣旨デアルコトハ、御述ニナリマシタ通りデアリマス、又一方ニ於キマシテ、實際ニ收入ノ途ノナイ者ハ、是亦救護法其ノ他ニ依ッテ國家ノ慈惠ノ下ニ醫療等ヲ受ケナケレバナラスノデアリマシテ、大體此ノ組合ノ狙ヒ所ハ、所謂生活ニ絶對困難ト云フ者デハナク、或程度マデ生活シ得ルケレドモ、併シナガラ醫療費ノ負擔ニ非常ニ苦シムト云フ者、所謂庶民階級ノ人々ヲ目標ニシテ居ルノデアリマス、デハ私ガ先程申上ゲマシタヤウニ、醫療費ガ平均年ニ於テ、農村ニ於ケル醫療費ト云フモノガ一年約二十五六圓ニ達スルト云フ次第デアリマスルガ、之ヲ其ノ都度支拂ヒマセヌデモ、オ五ニ危險負擔ノ原則ニ依ッテ、ソレ／＼平素カラ持チ寄ッテ居ルト云フコトニ依ッテ、所謂醫療費ノ負擔ノ輕減ト云フコトヲ圖リ得ルト思フノデアリマス、是ハ又其ノ醫療費ノ支出、醫療費ノ負擔ト云フコトモ必ズシモ現金ニ依ラズ、或ハ出來マシタ農產物ヲ以テ代納スルトカ、色々ナ方法ヲ立テマスナラバ、其ノ醫療費ノ納付、納入ト云フコトニ付テ左程ノ困難ヲ感じナイデ済ムデアラウト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、且又此ノ點カラ申シマシテモ、私共ハ開業醫ノ生活ヲ脅サナイ、

寧ロ或意味ニ於テ開業醫ニ便利ヲ與ヘル、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、此ノ國民健康保險組合ト云フモノガ普及發達致シマスナラバ、從來農漁山村等ニ於キマシテモ、病氣ニナッテモ醫者ニ掛レヌ、醫療費ノ負擔ノ爲ニオ醫者ニ掛レヌ、サウ云フ風ナ人ガ此ノ國民健康保險法ニ依リマシテ、オ醫者ニ掛リ得ル機會ガ多クナルノデアリマスカラ、即チ開業醫ノ扱ハレル患者ト云フモノガ却テ從來ヨリモ多クナリ、又一方ニ於キマシテ從來ニ依ッテオ五ニ保證スルヤウナ形ニナリマスルカラ、或意味ニ於テ開業醫ニ於ケル醫療費ノ收入ト云フモノモ、或意味ニ於テ確實ニナル、斯ウ云フコトニナルノデアリマスルカラ、此ノ制度ハ私ハ決シテ從來ノ開業醫ノ脅威ニナラヌト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、寧ロ或場合ニ於キマシテハ其ノ收入ヲ確保スルト、斯ウ云フ結果ヲ生ズルノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ思フ次第デアリマス、第六ニ第九條ニ依ル所謂醫療組合ノ代行ノ中デ、代行スルモノノ數ハドノ位デアラウカ、代行スルモノノ數ヲ成ルベク少ク限定セヨト、斯ウ云フ御話ノヤウニ承リマシタ、此ノ點ニ付キマシテハ、私ガ先程申上ゲマシヤウニ、所謂本法ハ國民健康保險組合ト云フモノヲ本旨ト致シマスルノデ、所謂從來ノ他ノ法人ノ代行ト云フコトハ一種ノ便宜手段ニ過ギナイノデアリマスルカラ、之ヲ助長獎勵スル意思ハ、此ノ法案ニ於テハ少シモ現レ

テ居ラスノデアリマスルカラ、只今御述ニナリマシタヤウニ、結局其ノ數ト云フモノハ極メテ少イモノデアラウト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、ソレカラ醫師會ノ團體契約ノ問題ニ付キマシテハ、先程來私ガ御答ヘ申上ゲマシタヤウニ、團體契約權ヲ法文ヲ以テ規定スルト云フコトニハ政府ハ同意致シカネノデアリマスルガ、併シナガラ團體契約ソレ自體ニ付キマシテハ決シテ之ニ反對スルモノデハナイノデアリマス、而シテ組合員ヲシテ成ルベク廣ク……今日ハ私ガ申ス迄モナク醫師ノ分科ト云フモノハ非常ニ廣ク分レテ居ルノデアリマスルカラ、成ルベク組合員ヲシテ廣イ範圍ノ醫師ニ掛リ得ルヤウニ爲サシメルコトハ最モ必要デアアル、即チ醫師選擇ノ自由ヲ組合員ニ與ヘマスルコトハ極メテ必要ト考ヘマスルノデ、其ノ趣旨ヲ省令等ニ於テ規定致シタイト、斯ウ云フ積リデアリマス、從ヒマシテ自然ト實際ニ於キマシテハ法文化セズトモ、醫師會トノ團體契約ト云フモノヲ法規ニ於テ強制致サズトモ、結果ニ於テハ醫師會トノ團體契約ガ廣ク行ハレルデアラウ、斯ウ云フ風ニ私共ハ想像スル次第デアリマス

○金杉英五郎君 只今内務大臣ノ周密ナル御答辯ニ對シマシテ、深く感謝致シマス、先約ニ依リマシテ、反問致シマセヌカラ、是デ終リマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ休憩ヲ

致シマス、午後一時三十分ヨリ開會致シマス

午後零時一分休憩

午後一時四十二分開議

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、日程第三ニ對スル質疑ヲ續行致シマス、伯爵有馬賴寧君

(伯爵有馬賴寧君演壇ニ登ル)

○伯爵有馬賴寧君 只今金杉君ノ御質疑ノ中ニ、自分ハ議員トシテ質疑ヲスルノデアッテ、醫師ノ代表ト云フヤウナ意味ハ毛頭ナイト云フコトヲ仰セラレマシタ、私ニ於キマシテモ同様デアリマシテ、其ノ間ヲ混同致シマヌヤウナコトハ無論致サナイノデアリマス、併シ金杉君ハ醫師ノ側ノ方デアリ、私ハ產業組合ノ側ノ人間デアルト云フ此ノ事實ヲ如何トモスルコトガ出來ナイノデアリマス、併シ多數ノ同僚諸君ハ醫師側ノ方デモナシ、又產業組合側ノ方デモナイノデアリマス、皆サンニ依ッテ極メテ公正ナル妥當ナル審判ヲ本法案ニ對シテ與ヘラレマスルコトヲ念願モシ、亦同時ニ確信ヲシテ居ル者デゴザイマス、私ハ本案ヲ推賞致シマスル三ツノ理由ヲ見ルノデアリマス、一ツハ現行保險組合ノ普及徹底ニ依リマシテ國民ノ健康ガ保持サレ、疾病ガ絶滅サレルト云フコトニナリマスレバ、國民ノ體位ガ向上ヲ致スノデアリマスルカラ、其ノ意味カラ考ヘマシテモ、本法案ガ通過致シマシテ、國民健康保險ガ全國ニ設立サレルコトハ誠ニ

結構ナコトデアルト考ヘマス、其ノ意味ニ於テ本法案ヲ推賞致シマス、第二ニ先程内務大臣ノ御答辯ノ中ニモゴザイマシタヤウニ、農村其ノ他ノ方面ニ於キマシテ、醫療ノ爲ニ經濟的重壓ヲ蒙リ居リマスル人ガ非常ニ多クアルノデアリマス、此ノ組合ガ普及ヲ致シマスレバ、ソレ等ノ人達ガ經濟的重壓カラ解放サレト云フ點ニ於キマシテ、私ハ此ノ組合ノ設立サレマスコトヲ歡ブ者デアリマス、第三ノ理由ハ此ノ健康保險組合ガ我が國ノ美風デアアル所ノ隣保相助ノ精神ニ基キマシテ、第一條ニゴザイマスヤウニ相扶共濟ト云フ其ノ精神ヲ基調ニシ、近代の機構デアアル所ノ組合主義ニ基カレタト云フ點ニ私ハ贊意ヲ表スル者デアリマス、管々シイコトハ申上ゲマセスガ、我が國ノ死亡率ガ非常ニ高イコト、又壯丁ノ檢査ニ於キマシテ、近頃ハ丙丁ノ體格ノ者ガ非常ニ殖エテ參リマシタト云フコト、及ビ農山漁村ノ健康デアアルベキ人々ガ、非常ニ健康ガ惡イト云フヤウナコト、是ハ主トシテ工場ニ働キマス或ハ都會ニ出テ働イテ居リマシタ者ガ病氣ニナルト、多ク農村ニ歸ッテ參リマス爲ニ、農村ニ非常ニ病人ガ多イヤウニ見ラレノデアリマスガ、ソレ等ノコトヲ考ヘ合ハシテ見マス時ニ、此ノ制度ノ出來マスルコトハ誠ニ喜バシイト思フノデアリマス、又先程モ御話ノ中ニ出マシタガ、農家一戸ノ一年ノ醫療費ガ二十五圓デアアル、是ハ平均デアリマスカラ、病人ガアリマシテモ、醫療ニ掛ラナイ家ガ相當アル

譯デアリマスルカラ、實際ニ醫者ニ掛リマシタ者ノ經濟的ノ負擔ト云フモノハ、此ノ平均價額ヨリモ更ニ多額ナンデアリマシテ、從ッテ其ノ經濟的重壓ト云フモノハ、相當重イモノデアルト云フコトハ、之ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス、以上三點ノ推賞スベキ特長ガアルノデアリマスガ、私ガ此ノ法案ノ内容ヲ見マスルト、其ノ三ツノ優レタ點ガアルニ拘ラズ、此ノ内容ヲ以テシテハ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデハナイカト云フ疑ヲ持ツノデアリマス、其ノ私ノ疑點ニ對シマシテ、ソレニ關シマシテ二三ノ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一ニ御尋ネ致シタイコトハ、此ノ國民健康保險組合ナルモノハ將來如何ナル方法ニ依リ、如何ナル規模ニ依リ、何年後ヲ期シタナラバ是ガ全國的ニ普及ヲ致シマシテ、眞ニ私共ガ健康ナル國民ヲ以テ我が國ヲ充タシ得ルヤウナ喜ヲ持ツコトガ出來ルカ、將來ニ對スル御計畫ナリ、其ノ手段方法ナリト云フモノニ付テ御尋ラシタイノデアリマス、昭和十二年度ニ之ニ關スル費用ガ四十四萬圓デアルト云フコトデアリマス、設立サレマスル組合ノ數ガ百二十、其ノ對象トナル所ノ人々ノ數ガ五十萬人ト云フコトデアリマス、是ハ最初ノ年度デアリマスカラ勿論準備時代デアルト見ルコトガ出來ルノデアリマスガ、若シ斯クノ如キ小サナ規模ニ於テ今後進メラレトスルナラバ、所謂百年河清ヲ待ツニ等シキモノデアリマシテ、斯ウ云フコトデ、私

共ハ満足スルコトガ出來ナイコトハ申ス迄モナイノデアリマス、衆議院ニ於ケル當局ノ御答辯ヲ伺ヒマシタ中ニ、今後八年々二千五百位ノ組合ヲ設置スル見込デアルト云フ御答デアリマシタ、サウシテ見レバ四年デアリマスカ、五年デアリマスカ、經チマスレバ、日本ノ一萬二千ノ全町村ニ此ノ組合ガ普及スルコト云フコトモ考ヘラレノデアリマスルガ、果シテモット早クデモ出來レバシタイト云フ御考ハナイノデアリマスカ、將來ニ對スル御計畫ヲ今伺ッテ譯デアリマス、御承知ノ如ク日本ニ醫師ノ居リマセヌ町村ガ相當多數ゴザイマシテ、所謂無醫村ト申シテ居リマスルモノガ三千四百餘リアルノデアリマス、產婆ノ居リマセヌ村ガ二千數百アリマシテ、齒醫者ノ居リマセヌ村ガ全國ニ七千以上アルノデアリマス、其ノ人口ヲザツト當テ見マシテモ、約八百萬人アルノデアリマス、醫者ニ掛ラナイト云フヨリモ、醫者ノ額ヲ見タコトモナイト云フ人ガ全國ニ八百萬人モアル、又醫者ガ居リマシテモ醫者ニ掛ラヌ人ハ相當アルノデアリマスカラ、患者ノ數ハ少クモ病人ノ數ハモット非常ニ澤山アルト云フコトハ是ハ想像出來ルコトデアリマス、此ノ無醫村ニ醫師ヲ置イテ、組合ヲ作ッテ醫療ヲ受ケラレルヤウニスルト云フコトダケデモ相當ノ數ガアルノデアリマスカラ、政府ガ此ノ目的ヲ達シヨウトスルニハ相當早急ニ大規模ニナサラナケレバナラナイト考ヘルノデアリマス、或ハ保健省設置ト云フヤウナ意見モアルヤ

ウデアリマスシ、又我が國ガ明治維新以來僅カニ七十年ノ間ニ此ノ世界デ一二ヲ爭フ所ノ國ニナリ得タト云フコトハ色々原因モアラウト思ヒマスガ、教育ノ普及徹底デアッタト云フコトハ考ヘラレルコトナノデアリマスガ、ソレニハ山間僻地到ル處ニ學校ガ設ケラレ、師範學校ノ卒業生ハ義務的ニ其處ニ居リマシテ、國民ノ教育ニ從事シテ居ルト云フ此ノ力ニ俟ツ所極メテ大デアルト思フノデアリマス、從ッテ此ノ國民ノ健康ヲ眞ニ保持シナケレバナラヌト云フ大目的ノ爲ニハサウシタ教育制度ノ例ニ倣ヒマシテ、如何ナル所ニモ醫療ノ設備ガアリ、如何ナル山ノ奥ニモ醫師ガ居住スルト云フヤウナ風ニマデ致サナケレバ、眞ニ此ノ目的ハ達セラレナイノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、最近ノ新聞紙ヲ通シテ見マス、政府ハ近キ將來ニ於テ、更ニ俸給生活者ノ爲ニ健康保險組合ヲ設立スルト云フ考ヲ持ッテ居ラレテ、其ノ要項サヘモ發表サレテ居ルノデアリマス、サウ云フ風ニ現行ノ健康保險組合アリ、又此ノ國民健康保險組合アリ、更ニ將來俸給生活者ノ組合ト云フ風ニ、サウ云フ風ニ多方面ニ互ッテ一齊ニオヤリニナルト云フコトハ誠ニ結構デアリマスルガ、何レモソレヲ完成シヨウトスルナラバ、ソコニ非常ナ財源モ要リマスシ、色々ナムヅカシイ問題ガ起ルト思フノデアリマスガ、是等ヲ何レモ完全ニ遂行シヨウトスル御考ニ對シテハ、ドウ云フ御計畫ガアルカト云フコトヲ先ヅ承リタイノデアリマス、第二ニ

御尋ヲ致シタイノハ、當局トシテハ只今私
方申上ゲマシタヤウニ、出來ルナラバ短イ
期間ニソレヲ完成シタイト云フ御考ハ無論
持ッテオイデニナルト思フノデアリマス、ソレ
ガ爲シ得ナイト云フコトノ原因ハ他ニ多少
アルト致シマシテモ、其ノ主タル原因ハ矢張
リ財源ノ問題ダト思フノデアリマス、今回
ノ來年度ニ於ケル所ノ四十四萬圓ト云フノ
ハ、是ハ郵便預金ノ利下ヲ行ヒマシテ、サウ
シテ一方ハ預金部ガ貸出シマス所ノ利子ヲ
引下ゲナイト云フコトニ依ッテ生ズル其
ノ金ガ、之ニ廻サレルノダト云フ風ニ私ハ
承知致シテ居ルノデアリマス、將來別ニ郵
便預金カラ生ズル收入ト云フヤウナモノ
ヲ之ニ振當テラレルト云フコトハ無論ナイ
ト思フノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ト云
フモノハ、御承知ノヤウニ所謂零細ナ貯金
デアリマシテ、低イ階級ノ方々ガ貯金サレ
タ金ガ集ッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ金
ヲ此ノ會社政策トシテ實行サレル保險組合
ノ費用ニ充當サレルト云フコトデハ、一般
庶民階級ガ受ケル利益ガ非常ニ減殺サレル
コトニナルト私ハ思フノデアリマス、平たく
言ヘバ右ニ奪ハレテ左ニ與ヘラレルト云フ
結果ニナルノデアリマシテ、サウ云フ財源
ノ取り方ハ、私ハ此ノ目的ニ副ハナイノデヤ
ナイカ知ラヌト云フ風ニ考ヘルノデアリマ
ス、是ハ先般稅租ノ委員會デ大藏當局ニ私
ガ伺ツタコトガアルノデアリマスガ、私ハ
斯ウ云フ社會政策の事業ヲ政府ガヤル爲
ノ其ノ財源、其ノ金ト云フモノハ、ソレト

稍、性質ヲ同ジクスル、又目的ヲ同ジクス
ル所ノ財源ヲ振向ケルト云フコトガ最モ妥
當デハナイカト私ハ思フノデアリマス、サ
ウ云フ意味カラ私ハ相續稅ト云フモノノ一
部ヲ割イデ、斯クノ如キモノノ費用ニ向ケ
ルト云フコトガ最モ適當ダト思フノデアリ
マス、私ハサウ云フ稅ノ收入ヲ或特殊ノ目
的ニ使フト云フコトガ妥當デナイ、サウ云
フヤリ方ハ財政當局トシテハ出來ナイト云
フコトハ承知致シテ居リマスガ、稀ニハサ
ウ云フ例モアルト云フコトヲ伺ッテ居ルノ
デアリマスガ、若シ出來ルト致シマスナラ
バ、相續稅ト云フモノハ勿論收入ヲ目的ト
シテ課稅セラレルモノデアリマスルガ、一
面ニ於テハ社會政策の目的ヲ持ッテ居ル
モノダト思ヒマス、即チ高イ所ノ土ヲ削ッテ
低イ所ヲ埋メルト云フ意味ニ於テ相續稅ト
云フモノハ課セラレルノダト思フノデアリ
マス、從ッテ相續稅ノヤウナ性質ヲ持ッタモ
ノヲ、此ノ庶民階級ノ幸福ノ爲ニ振向ケル
ト云フコトハ、私ハドチカラ見デモ意義
ガ有ルト云フ風ニ私ハ考ヘルノデアリマ
ス、モウ一ツ政府ノ收入ノ中ニ馬券カラ來
ル收入ガアリマス、此ノ馬券ノ賣上ニ關シ
テ入ッテ參リマスル收入ノ大部分ハ馬匹ノ改
良ニ使ハレルト云フコトハ勿論當然デアリ
マスガ、其ノ中ノ一部ヲ割イデ、内務省ガ
社會事業ニ毎年其ノ中カラ使ッテ居ルノデ
アリマス、斯ウ云フ種類ノモノガアリ、サウ
云フコトガ出來ルノデアルト致シマスルナ
ラバ、矢張ノ國民健康保險組合ノ財源トシ

テハ、サウシタ種類ノモノヲ考ヘルコトガ最
モ妥當デアルト思フノデアリマス、從來ノ
此ノ組合ノ財源ニ對シテドウ云フ御考ヲ
持ッテオイデニナルカト云フコトヲ承リタ
イノデアリマス、第三ニ承リタイト思ヒマ
スノハ、第九條ノ營利ヲ目的トセザル、公
益法人ノ代行ニ關スル政府ノ御考ヲ承リタ
イノデアリマス、政府ノ提出サレマシタ原
案ニ於ケル、第九條ノ營利ヲ目的トセザル
社團法人トアリマシタノハ、アレハ何ヲ指
シテ居ラレタノデアリマスカ、單ニ産業組
合ニ依ル所ノ、産業組合法ニ依ル所ノ醫療
組合ノミヲ指シテ居ラレタノデアリマスルカ、
或ハ産業組合全般及商業組合、工業組合ト
云フヤウナモノ迄モ考慮ニ入レテ、サウシ
テ營利ヲ目的トセザル社團法人ト云フ字ヲ
使ハレタノデアリマスルカ、其ノ點ヲ伺ヒ
タイノデアリマス、其ノ點ニ關シテ私ノ考
ヘテ居ル所ヲ一應申上ゲマス、衆議院ノ修
正ノ結果ニ依リマス、所謂醫療組合ト云
フコトニ限定サレルコトニナリマシタ、併シ
産業組合側ト致シマシテハ斯ウ云フ說ガア
リマス、必ズシモ醫療組合ト云フコトニ限
ラナクッテ、所謂産業組合ニ之ヲ代行セシム
ルコトニシタイ、其ノ意味ハ産業組合ヲシ
テ代行サセマスノハ、此ノ健康保險組合ノ
事務ニ關スルコトダケヲ代行致シマシテ、
醫療其ノ他ノコトハ産業組合自體デハヤラ
ナイ、ソレ等ハ此ノ健康保險組合ニ於ケル
場合ト同ジヤウニ謂ハユル營業トシテヤッテ
居ル所ノ開業醫ノ方ト契約ヲ致シマシテ、

醫療其ノ他ノコトハ全部其ノ專門家ニ委ネ
テ、産業組合ハ唯此ノ保險組合ノ事務の方
面ダケヲ代行シタイ、斯ウ云フ意見ヲ持ッテ
居ルノデアリマス、此ノコトハ醫師ノ方ノ
側ニ於キマシテモ必ズシモ不賛成ナ方バカ
リデハナイノデ、之ニ對シテハ贊成ノ意見
ヲ持ッテオイデニナル方モアルヤニ聞キ及
ンデ居ルノデアリマス、假ニサウ云フコト
ガ出來ルト致シマシタ場合ニ、ドウ云フ利
益ガアルカト申シマスルト、諄々シクハ申
上ゲマセスガ、經濟的ナ重壓カラ農村ノ
人々ガ救ハレル爲ニハ、産業組合ニ代行サ
セルト云フコトガ最モ宜イト私ハ考ヘルノ
デアリマス、若シ産業組合ノ存在致シマス
ル所ニ更ニ保險組合ガ出來ルト云フコトニ
ナリマスレバ、今日農村ニ於キマシテハ色々
ナ團體ガ澤山ニゴザイマシテ、其ノ爲ニ負
擔モ重クナリ、事務モ煩雜ニナリ、色々ナ
意味ニ於テ、農村ガ困ッテ居リマスルコトハ皆
様ノ御承知ノ通りデアリマス、從ッテ成ルベ
ク組合ノ團體ノ數ヲ減ラシマスルト云フ意
味カラ考ヘマシテモ、既存ノ産業組合ヲシ
テ代行セシメルト云フコトノ方ガ現在ノ農
村ノ實際上カラ言ッテモ宜シイノダト考ヘ
ルノデアリマス、假ニ現在ノ産業組合ガ代
行ガ出來ナイト云フ場合ヲ考ヘテ見ル、サ
ウ云フ規定ニナクッテ致シマシテ、現在ノ
産業組合ト云フモノガ、其ノ同ジ組合員
ヲ以テ健康保險組合ヲ設立セムト致シマ
シタ場合ニ、之ヲ許サレルト云フノデア
ルナラバ、最初カラ代行サセタ方ガ宜イノ

デアリマシテ、之ヲ許サナイト云フコト
ニナリマスルト云フト、其處ニ二ツノ重
ナツタ同ジヤウナ内容ヲ持ツ組合ガ存立
スルト云フコトニナルデアリマス、
團體ノ數ヲ殖スコトガ惡イト假ニ致シマス
ルナラバ、寧ロ之ヲ代行サシテ二ツノモノ
ヲ作ルヨリハ、一ツノモノデ済マシタ方ガ
農村ノ爲ニ宜イト私ハ考ヘルデアリマス、
第二ハ健康保險組合ト云フモノガ産業組合
ニ代行ヲサセナイデ、別個ニ村ニ立テラレ
ルト致シマスルト、其ノ健康保險組合ノ色
色ナ事務費デアルトカ、人件費デアルトカ、
色々ナコトニ相當ナ費用ガ掛リマシテ、其
ノ集リマシタ所ノ金ト云フモノノ相當ノ部
分ガ此ノ事務ノ方面ニ食ハレテシマツテ、
實際ノ醫療ノ方面ノ費用ニ使ハレルモノガ
非常ニ少ナルト云フ結果ガ來ルト思フノ
デアリマス、若シ之ヲ産業組合ニ代行セシ
メルト云フコトニナリマスレバ、現在産業
組合ガヤッテ居リマスル仕事ノ餘リ大差ガ
ナイノデアリマスルカラ、ソレガ爲ニ無駄
ナ費用ガ要ツタリ、無駄ナ手數ガ掛ツタリ
ルコトヲ省キマスカラ、從ッテ健康保險組合
ノ醫療ノ方面ニ使ハレマス費用ガ十分ニナ
ルノデハナイカト思フノデアリマス、又産
業組合ガ代行致シマスルト云フト、農家
ガ現金支出ヲ免レル非常ニ便宜ガアルト思
フノデアリマス、農村ノ色々ナ苦痛ノ中デ

農家ガ僅カナ收入ノ中カラ現金ヲ支出致シ
マスと云フコトハ最モ大キナ苦痛ナノデア
リマス、産業組合デ之ヲ代行致シテ居リマ
スレバ、米ナリ、麥ナリ、或ハ蠶ナリ、其
ノ他サウシタ品物ヲ持ッテ參リマシテ、之
ヲ産業組合ニ於テ金ニ換ヘテ貰ヒ、或ハ金
ヲ貸シテ貰フト云フ便宜ガアリマスカラ、
無理ニ他デ以テ現金ヲ作ラナケレバナラス
ト云フヤウナコトガナクテ済ムト思フノデ
アリマス、又保險組合ニ於キマシテハ掛金
ノ拂戻ト云フヤウナコトモアルデアリマ
ス、サウ云フヤウナ保險金ノ拂込デアルト
カ、或ハ拂戻デアルトカ云フヤウナコトニ
關シマシテ、之ヲ取扱ヒマスコトハ隨分煩
瑣ナ仕事デアルト思フ、ソレヲ産業組合デ
アリマスレバ、信用事業トシテヤッテ居リ
マスル仕事ト大體ニ於テ同ジナンデアリマ
スルカラ、之ヲ致シマスルコトガ大シテ煩
雜デナイト考ヘルデアリマス、之ヲ醫師
ノ側カラ見マシタ場合ニ、産業組合ニ代行
サセルト云フコトガ醫師ノ側カラ見デモ決
シテ惡イコトハナイト思フノデアリマス、
ソレハ産業組合側ニ於キマシテハ、何モ強
ヒテ現在ノ醫療組合ノヤウナモノヲ無理ヤ
リニ數ヲ殖シ之ヲ擴メナケレバナラスと云
フコトヲ考ヘテ居ツタノデアリマセヌ、ソ
レハ御承知ノヤウニ現在ノ醫療制度デハ、農

村ノサウシタ低イ階級ノ人達ガ、醫療ニ惠
マレナイノヲ救ハナケレバナラナイト云フ
結果ガ、即チ醫療組合ト云フモノガ發達シ
テ來タノデアリマス、若シ此ノ健康保險組
合ナルモノガ今カラ五年ナリ十年ナリ前ニ
出來テ居ツタナラバ、恐ラクハ醫療組合ト云
フモノハ生レテ來ナカッタンデハナイカト
思フノデアリマス、デ産業組合ニ事務の方
面ヲ代行サセテ、サウシテ産業組合自身ガ
醫療組合ヲヤルト云フコトヲ防グコトガ出
來タナラバ、是ハ所謂醫師側ガ希望シテ居
ラレル一番大キナ目的ガ達セラレルノデハ
ナイカト思フノデアリマス、其ノ他醫師ノ
收入ガ確實ニナルト云フヤウナ色々ナ問題
ガアリマスガ、ソレ等ヲ綜合シテ考ヘテ見
マシテモ、私ハ産業組合ニ代行サセルコト
ハ何レノ方面カラ見テモ決シテ惡イコトデ
ハナイト思フノデアリマス、殊ニ行用ト云
フコトハ成ルベク相類似シタルモノニ代行
セシメルト云フノガ筋ガ通ツテ居ルノデアリ
マシテ、違ッテ居ルモノニ行用サセルト云フ
コトハ、私ハ筋ガ通ラナイト思フノデアリ
マス、今回ノ改正ニ依リマスルト、醫療組
合ニハ代行サセルガ、産業組合ニハ代行サ
セナイト斯ウ云フコトニナリマス、私カ
ラ見マスルト、産業組合ニ事務の代行ヲ
サセルコトノ方ガ寧ロ近イ、即チ健康保險
組合ニ於キマシテハ、所謂事務の方面ヲヤッ

テ居テ、一切ハ開業醫ニ之ヲ任セルト云フ
建前デアリマス、只今私ガ申上ゲマシタヤ
ウニ産業組合ガ事務の方面ノミヲ代行シテ、
醫療ノ方面ハ開業醫ニ之ヲ任セルト云フナ
ラバ、ソレハ一般健康保險組合ト同ジ形デ
アルト思フノデアリマス、其ノ同ジ形デア
ル方ノ産業組合一般ニ對スル代行ヲサセナ
イデ、醫療組合ト云フ自ラ醫療ヲ行フ所ノ
寧ロ健康保險組合トハ可ナリ性質ガ違フト
思フノデアリマス、即チ健康保險組合ハ、ソ
レ自體醫療ヲヤラナイノデアリマスルカラ、
所ノ健康保險組合ノ代行ヲ、自分自身デ醫療
ヲヤル所ノ醫療組合ニ委ネルト云フコトハ、寧
ロ代行カラ云ツテ逆デヤナイカ知ラト私ハ思
フノデアリマス、サウ云フ意味カラ私ハ第
九條ノ公益法人ノ代行ト云フコトハ、産業
組合、工業組合、商業組合ト云フヤウナモノ
ニ廣ク事務の方面ヲ代行セシメルト云フ御
考デ初メ立案サレタンドハナイカト想像ス
ルノデアリマスノデ、其ノ點ヲ御尋ネ致シ
タイノデアリマス、第四番目ニ御尋ヲ致シ
タイノハ、第九條ノ削除ト其ノ附則ニ付テ
デアリマス、政府ハ衆議院ノ修正ニ同意ヲ
サレマシタ、若シ營利ノ目的トセザル公益
法人ト云フコトヲ削除シテ、單ニ醫療組合
ニ代行セシムルト云フ風ニナツタ此ノ修正

案ニ御同意ニナルト云フノデアリナラバ、政府モ最初ヨリ所謂醫療組合ニ限ルト、代行ト云フコトハ即チ醫療組合ニ代行セシムルノダト云フ風ニ初メカラ御考ニナッテ居ラシタモノノ如ク想像ガサレルノデアリマス、内務大臣ノ先程ノ御答辯及衆議院ニ於ケル御答辯ヲ拜聴致シマシテモ、稍、サウ云フ風ニ受取レルノデアリマスガ、ソレナラバ何故ニ最初ニ、營利ヲ目的トセザル公益法人ナント云フ、社團法人ナント云フヤウナ言葉ヲ御使ヒニナラナイデ、初メカラ所謂醫療組合ニ代行セシムルト云フ風ナ文字ヲ御使ヒニナラナカッタノデアリマスカ、其ノ點私ハ了解シ難イノデアリマス、又健康保險組合ノ中ニハ普通ノト特別ノトアリマス、特別ト云フノハ主トシテ都會ノ商業工業者ト云フ方面ニ於テ組織サレルモノデアル、先程内務大臣ノ御答辯ノ中ニモ、中小ノ商業工業者ト云フヤウナ言葉ガアリマシタ、從ツテ是ハ農村ノミノモノデハナイト思フノデアリマス、都市ノ商業工業者ノ間ニ此ノ健康保險組合ヲ普及サセヨウトスルナラバ、現在發達ノ途上ニアリマス所ノ工業組合竝ニ商業組合ト云フヤウナモノニ、其ノ事務ノ方面ヲ代行セシムルコトハ極メテ妥當デナケレバナラナイト私ハ思フノデアリマス、更ニ東京アタリノ細民窟、所謂貧民窟ト稱セラレル所ニ居リマス人々ガ、只今ドノ位アルカ分リマセヌガ、大體

ニ於テ貧民ノ數ト云フモノハ其ノ都市ノ人口ノ約一割ト言ハレテ居リマス、從ツテ東京ノ貧民窟ニ居リマス人ハ、三四十萬人ノ人ガ居ルデアラウト思フノデアリマス、是等ニ對シマシテ健康保險組合ト云フモノラドウ云フ風ニ當嵌メテ行カレルノデアリマスカ、サウ云フ人達ハ問題ニシナイト云フ御考ナンデアリマスガ、其ノ點モ之ニ關係シテ御伺シタイノデアリマス、モウ一ツハ、衆議院ノ附則ニ三月三十一日迄ノ、所謂醫療組合ニ限ッテ代行セシメルト云フコトニナリマシテ、是モ政府ガ御同意ニナツタンデアリマス、三月三十一日ト云フ日ハ何處カラ出テ來タノデアリマスガ、政府ニ御伺スルコトハ甚ダ變ノヤウデアリマスケレドモ、政府ガ御同意ニナツタ所ヲ見レバ、衆議院ガ何方故ニ此ノ三月三十一日ト云フ日ヲ押ヘタカト云フコトハ、無論御聽キニナツテ御同意ニナツタモノダト思フノデス、從來ノ例カラ申シマスルト云フト、例ヘバ、本法施行ノ日迄トカ、何かソコニ法律ト關係ノアル特別ノ期日ガアル筈デス、ドウモ是ガ會計年度ト關係ノアルモノトハ私ハ考ヘナイノデアリマシテ、三月三十一日ト云フ日ハ何處ニ原因シテ斯ウ云フ日ガ出テ來タノデアリマスガ、其ノ點私甚ダ疑念ナキヲ得ナイノデアリマス、又ドンナニ良イ醫療組合デアッデモ、今迄ノモノハ許スケレドモ將來ノモノハ許サナイ、斯ウ云フ風

ニ附則ニ依ッテ定メラレルノデアリマスガ、代行ト云フコトハ、後ニ申シマスルヤウニ、内務大臣ニ對シマシテ衆議院ノ特別委員長カラ色々念ヲ押サレマシタ、其ノ中ニ、斯ウ云フ條件ヲ持ッテ居ルモノデナケレバイカスト云フ條件ヲ四ツバカリ出シテ居ラレマス、其ノ條件モ内務大臣ハ之ヲ承認シテ居ラレルノデアリマス、其ノ條件ハ、全町民ヲ組合ニ入レテ居ナケレバナラヌトカ、或ハ設備ガ完全シテ居ナケレバナラヌトカ、今迄ノ成績ガ良クナケレバナラヌトカ、色々ナ條件ガ其處ニアルノデアリマスカ、サウ云フ條件ガアルト云フコトハ、即チ其ノ條件ヲ具備シテ居ルモノナラバ、代行サセテ良イト云フコトダト思フノデアリマス、然レニサウ云フ條件ヲ假令備ヘテ居ルモノデアッデモ、是カラ出來ルモノハイケナイト云フコトヲ言ハレルノハ甚ダ筋ガ通ラナイト私ハ思フノデアリマス、過去ノモノデアラウト、又將來ノモノデアラウト、ソレ等ノ條件ヲ假ニ良イト致シマスナラバ、其ノ條件ヲ具備シテ居ルモノデアアルナラバ、將來ノモノモ亦之ヲ代行セシメルト云フノデナケレバ筋ガ一貫シナイト思ヒマス、然レニ三月三十一日ト云フ特別ニ期限ヲ限ルト云フコトハ、私甚ダ當ヲ得ナイト思フノデアリマス、ソコデ是ハ推測デハアリマスガ、サウ云フ條件ヲ一方ニ附ケテ置イテ、更ニ三月三十一日ト云フ期限ヲ

切ッタト云フコトカラ推測致シマスルト云フト、此ノ修正ハ、或ハ又此ノ修正ヲナスベク働イタカト云フモノハ、此ノ醫療組合ト云フモノニ代行セシメルト云フコトガ問題ナノデハナケテ、將來醫療組合ト云フモノガ増加シナイト云フコトヲ目標ニシテ居ルモノダト私ハ思フノデアリマス、惡イモノデナケレバ宜イト云フナラバ將來デモ宜イ筈ナンデス、過去ノモノモ良イモノナラバ過去ノモノダケハ許ス、將來出來ルモノハ良イモノデモ惡イモノデモ之ヲ許サナイ、代行サセナイノダト云フ、斯ウ云フコトニナリマスルト、ソレハ代行問題デハナケテ、醫療組合ノ設立ヲ阻止シヨウトスル所ノ趣意ニアルト私ハ考ヘルノデアリマス、ソコデ伺ヒタイノハ此ノ健康保險組合ノ代行ト云フモノヲ産業組合ガ出來ナイ、今後出來ナイト云フコトニ此ノ法律ニ依ッテ定メラレタ曉ニ於テ、農村ノ産業組合ガ將來醫療組合ヲヤルカヤラナイカト言ヒマスルト、是ハ産業組合全體ノ一致シタ方針デハアリマセヌケレドモ、一部ノ方面ニ於テハ、今後益々農村ニ於テ産業組合ハ醫療組合ヲヤラナケレバナラヌト云フ強イ主張ヲ持ッテ居ル地方ガ相當多クアルノデアリマス、ソレハ産業組合ノ方面ニ於テ醫療組合ヲ營ムコトガ禁止サレナイ限り、産業組合トシテ醫療組合ヲ經營スルコトハ將來ニ於テモ考ヘラレル事柄ナンデアリマ

ス、若シサウ云フコトニナツタト致シマスルナラバ、此ノ醫療組合ガ將來出來ルコトヲ阻止シタイ爲ニナサレタ此ノ法律ノ改正ト云フモノハ、恐ラク目的ヲ達シナイコトニナルノデハナイカ、若シ其ノ醫療組合ノ設立ヲ將來ニ向テ阻止シヨウト云フ其ノ意圖ニ對シテ、政府ガ同ジヤウナ御考ヲ持ッテ居ラシヤルトスルナラバ、ソレハ恐ラク地方長官ニ於テ新シイ醫療組合ノ設立ニ對シテ認可ヲ與ヘナイト云フ方針ヲ執ラレルヨリ外ニ方法ハナイト思ヒマス、ソコデ私ハ伺ヒタイノハ、内務省ハ將來地方長官ヲシテ新シイ醫療組合ハ認可ヲシナイ方針ヲ執ルト云フヤウナ御考ヲ持ッテ御イデニナルノカドウカ、其ノ點ヲ私ハ承リタイノデアリマス、先程チヨット申上ゲマシタガ、代行ヲ許スト云フコトニ付テ、特別委員長ト内務大臣ノ間ニ交サレタ應答ノ中ニ、全町村民ノ加入シテ居ルモノ、詰リ醫療組合トシテ代行ヲ許ス所ノモノハ、全町村民ヲ加入セシメテ居ルモノ、又醫療設備ノ完全ナモノ、第三ニ創立以來、醫療成績ノ良好ナルモノ、第四ニ過去ノ成績ニ徴シ、收支相償ヒ、財政ノ基礎鞏固ナルモノ、斯ウ云フ非常ニムヅカシイ條件ガ四ツ掲ゲテアルノデアリマス、之ニ對シテ内務大臣ハ、第一ノモノニ付テハ、チヨット御答デハ例外ヲ置カレタヤウデアリマスガ、後ノ三ツニ付テハ御同意ニナッテ居ルノデ

アリマス、此處デ私ノ伺ヒタイノハ、醫療組合ニ對シテハ斯クノ如キ非常ニ嚴重ナ條件ガ附ケラレテ居ルト致シマスナラバ、將來健康保險組合ガ開業醫ト契約ヲサレ、開業醫ニ醫療事業ヲ委ネラレマス場合ニモ、大體ニ於テ此ノ條件ニ適スルヤウナ者ニ御依頼ニナルノデアリマス、開業醫デアルナラバ、設備ハ不完全デアラウト、其ノ成績ハ如何ニ惡カラウト、サウ云フコトハ一切問題ニハナラヌ、醫療組合ノ場合ダケガ、斯ウ云フ條件ヲ持ッテ居ナケレバナラスト、斯ウ云フ風ニ言ハレルノハ甚ダラカシイト思フノデアリマス、殊ニ第一ノ全町村民ガ加入シテ居ナケレバナラスト云フコトヲ條件ニ加ヘラレテ居リマスガ、私ノ承知シテ居ル所デハ、健康保險組合ハ強制加入ノ點モゴザイマスケレドモ、大體ハ加入自由主義ヲ執ッテ居ラル、ヤウデアリマス、然ルニモ拘ラズ此ノ醫療組合ダケハ全町村民ガ加入シテ居ルト云フコトヲ條件ニシテ居ラシヤルトコトハ、甚ダ無理ガアルト思フノデアリマス、即チ醫療組合ニ對シテハ可ナリ出來ナイ相談ヲ持チ掛ケラレ、資格ノ合格シナイ者ヲ故ラニ作ッテ居ラル、ヤウナ感じガ私ニハスルノデアリマス、サウ云フムヅカシイ代行條件ヲ附ケ、更ニ期限ヲ限ラレタト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、團體契約ノ問題ハ、先程内務大臣ノ御答ニ

依ッテ承知ヲ致シマシタ、併シ團體契約ト云フコトガ、此ノ健康保險組合ニ取ッテドウ云フ關係ニ在ルカト云フコトハ、過去ニ於ケル所ノ健康保險組合ニ於ケル團體契約ノ實情ニ照シテ見テ、最早茲ニ考慮ヲサレル餘地ハナイモノト私ハ考ヘルノデアリマス、最後ニ、是ハ委員會デ御尋スベキコトデ、此處デ申上ゲルコトデハナイカモ知レマセスケレドモ、健康保險組合ガ出來マシテ、サウシテ醫師ト醫療ノ點ニ於テ契約ヲサレマシタ場合ニ、若シ斯ウ云フヤウナ場合ガアツタラバ、ドウ云フ風ニ御取扱ニナルンデスカ、ソレヲ伺ヒタイノデスカ、醫師ガ何等特別ノ理由ナクシテ、正當ナル所ノ理由ナクシテ、患者ノ請求ニ應ジナカッタ場合、往診ヲ拒絕スルト云フヤウナ場合ガアリマシタ時ニハ、是ハドウ云フ風ニ御取扱ニナルノデアリマス、一方ニ於テ健康保險組合ヲ獎勵シテ、之ニ強制加入ヲサセテ置イテ、サウシテ醫師ハ頼ンデモ來テ呉レナイト云フヤウナ場合ガ若シアツタト致シマシタナラバ、ソレハ醫師ニ對シテ或制裁ナリ、何等カノ方法ガ考ヘラレルノデアリマセウカ、其ノ點ヲ伺ヒタイノデアリマス、ナゼ私ガサウ云フコトヲ御尋スルカ、外デハアリマセウガ、御承知ノ如ク、今日モ尙差別待遇ノナクナラナイ部落ガ全國ニ澤山ゴザイマス、其ノ人口約八十萬人ト言ハレテ居リマスガ、是等ノ人達ガ經濟上、社會上、

有ラユル場合ニ於キマシテ差別待遇ヲ受ケテ非常ニ惱ミ苦ンデ居ルト云フ事實ハ恐ラク皆サンノ御承知ノコトデアルト思フノデアリマス、私ノ聞及ビマシタ所ヲ申上ゲマスレバ、部落デハ病氣ニナリマシタ時ニ、醫師ノ往診ヲ依頼致シマシテモ、部落ニ往診ヲシテ呉レル人ハ極メテ稀デアリマス、勿論來テ下サル方モアリマスガ、部落ヘハ來テ下サルナイ御醫者サンガ随分多イノデアリマス、私自身ノコトヲ申上ゲテ甚ダ恐縮デアリマスガ、先年私ハ郷里ヘ歸リマシテ、郷里ノ直グ傍ニ部落ガアリマス、其處ヘ講演ガゴザイマシテ、講演ニ參リマシタ節ニ、私ハ腦貧血ヲ起シテ倒レタノデアリマス、早速附近ノ醫師ノ所ニ驅付ケマシテ往診ヲ依頼致シマシタ所ガ、三人トモ醫師ガ來テ呉レナイノデアリマス、已ムヲ得ズ私ノ姓名ヲ申シマシテ、サウシテ是レノデ倒レタカラ來テ欲シイト申シマシタラバ、初メテ一人ノ醫師ガ來テ呉レタヤウナノデアリマシテ、其ノ部落ノ人ノ話ヲ聽キマスト、何時デモサウデアアル、決シテ部落カラ迎ヘニ行ツタノデハ醫師ハ來テ呉レナイノダト云フコトヲ申シテ居ッタノデアリマス、健康保險組合ガ出來テ、總テノ人ガ醫療ニ惠マレルト云フコトハ、組織ノ上カラ言ヘバ、制度ノ上カラ言ヘバ出來ルコトデアリマセウケレドモ、實際問題ハサウ簡單ニハ行カナイノデアリマシテ、ソコニ色々

ナ支障ト云フモノガアルト云フコトヲ社會局ニ於テハ勿論御承知デアラウト思フノデスガ、サウ云フヤウナ事柄ニ對シテハ如何ニ御處置ニナリ、御考ニナッテ居ラシヤルカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、是ハ質問デハゴザイマセヌガ、先程金杉サンの御質疑ノ中ニ、私ハ金杉サンノ御質疑ニ對シテ兎ヤ角申上ゲルノデアリマセヌガ、私ノ立場トシテドウシテモ申上ゲテ置カナケレバナナイコトガ一ツアルノデアリマス、ソレハ産業組合ガ醫療組合ヲ拵ヘテ、醫療ノ事業ニ從フト云フコトハ脱線ダ、間違ッテ居ルノダ、米ヤ麥ヤ牛ヲ飼ッタリ、サウ云フコトヲスルモノガ産業組合ヲ作ルノハ宜イガ、醫療事業ヲヤッテ組合ヲ作ルト云フコトハ怪シカラスト云ツタ風ナ御話ガゴザイマシタガ、是ハ申上ゲル迄モナク、決シテ組合ノ幹部トカ何トカ云フヤウナ、醫師デモ何デモナイ者ガ醫療事業ヲヤッテ居ルノデハ勿論ナイノデアリマス、其處ニ立派ナ博士ナリ、學士ナリ、其ノ他ノ醫師ヲ高給ヲ拂ッテ居リマス、設備其ノ他ニ於キマシテモ相當完全ナ設備ヲシテヤッテ居ルノデアリマシテ、ソナナ素人ノ、素人療治ノヤウナコトヲ決シ致シテ居ル譯デハナイノデアリマス、金杉君ハ組合病院ヲ御覽ニナツタコトハ御アリニナラヌダラウト私ハ思フノデアリマ

スガ、若シ御暇ガアリマシタラバ、東京ノ中野ノ驛ノ直グ傍ニ組合病院ガゴザイマス、此ノ組合病院ノ設備等ハ、恐ラクハ私立病院ノ惡イノニ比レバ遙カニ優レタ設備ヲ持チ、立派ナ醫師ヲ持ッテ居ルト思フノデアリマス、又醫師ノ側ノ方ガ産業組合ノ醫療或ハ今回ノ代行ト云フヤウナコトニ付テ必ズシモ反對ヲシテ居ラナイ、現ニ衆議院ノ社會大衆黨ノ三宅正一君ガヤッテ居リマス、新潟縣ノ中越醫療組合病院ノ設立ノ時ニモ、其ノ地方ノ醫師ノ方々ガ非常ニ反對ヲサレマシテ、東京帝國大學ノ醫學部ニ對シテ醫師ヲ派遣シナイ、要求ガアッテモ醫師ヲ送ラナイヤウニト云フコトヲ運動サレマシタトキニ、東京帝國大學ノ醫學部ニ於テハ其ノ要求ヲ排除サレテ、進ンデ組合病院ヲ援助サレタト云フ事實ガアルノデアリマス、其ノ他各地ニアリマス組合病院ニハ全國ノ各醫科大學ガ進ンデ之ヲ援助サレテ居ルト云フ事實ガアルノデアリマシテ、決シテ私共ハ産業組合ノ醫療事業經營ト云フコトガ、必ズシモ醫師ノ方々カラ反對ヲサレバカリ居ルモノデナイト云フ風ニ私ハ承知致シテ居ルノデアリマス、私ノ申シタコトガ非常ニ順序ガ混同シタリ何カ致シマシテ、御聴取リニクカッタ點ガアツタカト思フノデアリマスガ、内務大臣ノ御答辯ヲ戴キマスレバ、非常ニ仕合セデゴザイマス

（國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル）

○國務大臣（河原田稼吉君） 只今有馬伯爵カラ本法案ニ付キマシテ御同情アル段々ノ御言葉ヲ戴キマシテ、誠ニ感佩ニ堪ヘマセヌ、御尋ノ次第ヲ逐次私ノ解釋ニ基キマシテ御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ハ將來如何ナル方法ニ依ッテ此ノ健康保險組合ト云フモノヲ普及セシムルカ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ諒承ヲ致シマシタ、只今仰セニナリマシタヤウニ、今年度ノ計畫ト致シマシテハ、マダ甚ダ少イノデアリマス、豫算ニ現レマシタヤウニ、初メノ年度ニ於キマシテ一人當リ年一圓、三年以後ハ七十錢、五年以後ハ五十錢ノ國カラ補助ヲスルト云フ計畫デアリマス、デ將來財源ノ餘裕ノ付キマス限リハ、出來ルダケ速カニ、且出來ルダケ廣範ニ此ノ制度ヲ普及致シタイト思フノデアリマス、デ固ヨリ地方ニ於ケル醫療ノ惠澤ヲ廣カシメテ、一方ニ於キマシテ國民生活ノ安定ノ一助ヲ爲サシムルト共ニ、又一面ニ於キマシテ國民體位ノ向上ヲ圖ルト云フ趣旨カラ、此ノ組合普及ノ外ニ、尙豫算面ニ現レテ居リマスヤウナ、無醫村ニ對シテ段々ニ醫者ヲ普及セシメテ行キタイ、斯ウ云フ計畫ガアルノデアリマス、ソレカラ尙別個ノ法案トシテ提出ヲ致シテ居リマスル保健所法案ニ依リマシテ、人口約二十萬乃至十二三萬ノ範圍内ニ於テ健康相談所ヲ置イテ、サウシテ營養其ノ他ノ研究、普及ト云フコトニ當ラシメ、是等ト相俟ッテ國民

體位ノ向上ヲ來サシメタイ、斯ウ云フ積リデアリマス、デ本制度ニ於キマシテモ出來ルダケ早く、出來ルダケ廣ク普及セシメタイノデアリマスガ、只今申上ゲマシタヤウナ、一方ニ於キマシテハ財源ト云フコトモ考慮シナケレバナラス、必ズシモ當局ノ考ヘルヤウニ、直チニ極メテ短イ年度ノ間ニ普及スルカドウカト云フコトハ、茲ニ確言ハ致シ兼ねマスルガ、私共ト致シマシテハ出來ルダケ早く此ノ普及ト云フコトニ努力致シタイノデアリマス、ソレカラ第二ニ尙是ト關聯致シマシテ「サラリーマン」ノ保險問題ニ付テ計畫ガアルサウデアアル、是ハドウカト、斯ウ云フ御尋ノヤウニ伺ヒマシタガ、是ハマダ確定ノモノハゴザイマセヌケレドモ、矢張り社會保險ノ三單位トシテ労働者ニ對スル保險、船員ニ對スル保險並ニ此ノ給料生活者ノ保險ノ問題ニ付キマシテ、相並ンデ、成ルベク近イ機會ニ解決致シタイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、第二ニ短期間ニ普及ガ出來ナイト云フ理由ハ財源ニ基クモノデアラウ、且又今回ノ補助財源ニ郵便貯金ノ利下ノ金ヲ以テ充テル、サウ云フヤウナコトハ必ズシモ適當デナイ、將來ハ相續稅其ノ他ノ財源ニ依ッテ其ノ普及ヲ圖ルベキモノデアラウト、斯ウ云フ御言葉デアリマシタ、私ハ誠ニ御尤ノ御考ト考ヘマスルガ、併シ此ノ社會政策ニ關スル施設ハ必ズシモ財源ト云フ問題

ニ限ラズ、一般財源、何ノ財源ト、云フコトニ依ラズシテ、所謂庶民階級ノ福利ヲ圖ル爲ニハ一般財源ノ建前ニ於テ之ヲ考慮シテ、成ルベクサウ云フ風ニ向ケテ行クト云フコトガ適當デアリ、必要デアルト思フノデアリマス、デ必ズシモドノ財源ト云フ風ニ限ラズデモ宜イノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ第三ニ第九條ノ問題デアリマスガ、先ヅ第一ノコトハ此ノ原案ノ第九條ト云フモノニ付テ營利ヲ目的トセザル社團法人トアルガ、是ハ醫療組合ト云フコトヲ明カニシテ居ラス、從ヒマシテ甚ダ不明瞭デハナイカ、此ノ範圍ニ屬スルモノハ所謂産業組合モアリ、工業組合モアリ、其他ノ色々ノ公益團體ト云フモノガアルノダガ、ソレヲ見込マナイノデアラウ、大體ニ於テ醫療組合ト云フモノヲ眼中ニ入レテ斯ウ云フ規定ヲ拵ヘテアルノダラウト云フ、斯ウ云フ風ノ御解釋デアリマシタガ、其ノ通りデアリマス、廣ク此處ニハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト云フ言葉ヲ用ヒテデアリマスガ、是ハ法律ノ用語トシテ適當ナル言葉ト思フタ次第デアリマシテ、別ニ他意アル譯デハナク、俗ニ謂フ醫療組合ト云フモノヲ目標ニシタ次第デアリマス、工業組合或ハ商業組合、若シハ廣イ意味ノ産業組合ト云フモノガアル、一般ノ公益法人ト云フモノヲ意味シテ居ル次第デハナイノデアリマス、更ニ此

ノ國民健康保險ノ事業ヲ廣ク産業組合ヲシテ行ハシムルコトガ適當デハナイカ、斯ウ云フコトニ付キマシテ段々ノ御意見ヲ拜承シタノデアリマス、是ハ一面ニ於テ御尤ナ次第ガアルトハ考ヘマスガ、併シ一面ニ於テ先程私ガ申上ゲタヤウニ、國民健康保險ノ問題ハ、矢張り國民健康保險組合ト云フ一ツニ統轄サレタ團體ノ下ニ、ソレノミヲ主眼トシテ行フ團體ニ於テ行ハシムルコトガ適當デアラウ、産業組合ハ私ガ申ス迄モナク所謂經濟上ノ幸福ヲ……組合員ノ經濟上ノ幸福ヲ増進スルコトヲ目的トシテ設立セラレルモノデアリマシテ、餘リニ廣ク色々ノ事業ヲ附シマスコトハ、是ハ固ヨリ其ノ組合ノ自由デアリマスガ、法文ニ於テサウ云フコトヲ獎勵スルコトハ如何カト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、固ヨリ本法ガ施行セラレマシテモ、産業組合ニ於テ醫療事業ヲサレルコトハ何等禁止ノ規定ハナイノデアリマス、デ御承知ノ通り是ハ大局ノ觀察ト致シマシテ、先程金杉博士カラ御述ニナリマシタヤウニ、此ノ問題ニ付キマシテハ種々ナル摩擦ヲ考ヘナケレバナラス、或場合ニハ或程度ノ摩擦、或程度ノ利害ノ得失ト云フコトヲ眼中ニ置カヌデ解決シナケレバナラスコトハ固ヨリデアリマスガ、此ノ事業ヲ行ヒマスルニハ、若シハ或改善ヲ行ヒマスニハ……サリナガラ其ノ摩擦ト云フモノヲ成ルベク少ナカラシメテ行キ、

其ノ摩擦ヲ成ルベク廣ク排除致シマシテ、成ルベク世ノ中ヲ圓滑ニ、協調的ニ行カシメルト云フコトガ非常ニ必要デハナイカト思ヒマス、サウ云フ觀點ニ於テ種々ナル改善ヲ圖ッテ行クト云フコトガ矢張り此ノ政治ナリ、行政ナリノ根本デアリ基礎デハナイカ、成程理想論カラ申シマスレバ多少不滿ノコトガアリマシテモ、矢張り實際ノ施設トシテハ色々ノ摩擦ヲ防グガ爲ニ、若干ノ點ヲ忍バナケレバナラス、斯ウ云フコトモ私ハ考ヘネバナナイノデハナイカト思ヒマス、而シテ産業組合トシテハ尙更ニ組合員ノ經濟上ノ福利ヲ増進スルコトニ重大ナル目的ガアルノデアリマスカラ、所謂一般國民ノ醫療ト云フ問題ハ、別個ノ組合ニ之ヲ爲サシメテ、且又別個ノ組合ノ方針トシテ爲サシムルコトガ私ハ適當デハナイカ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、是ハ申ス迄モナク近時産業組合ノ活動ガ頗ル活潑デアリマシテ、是ハ誠ニ結構ナコトと思ヒマスガ、之ガ爲ニ諸方ニ色々ナル摩擦ヲ生ジテ居ル、是ハ私ハ兎ヤ角言フ譯デアリマセスケレドモ、此ノ醫療ト云フ問題ヲ解決致シマスル上ニ於テハ、成ルベクサウ云フ問題ニ觸レズシテ、サウシテ國民ノ健康増進ト云フ一本筋ニ進ムト云フコトガ、ヤリ方トシテハ適當デハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘタ次第デアリマス、從ヒマシテ第九條ハ先程私ガ申述べマシタヤウニ、國民健康

ノ増進ト云フコトハ、所謂國民健康保險組合ト云フモノヲ根本骨子トシテ致ス次第デアリマシテ、唯現在ニ於テ行ハレテ居ル醫療組合ニシテ、相當成績ガ擧ゲテ居リ、且此ノ仕事ヲ爲サシメテ差支ナイモノハ或程度マデ此ノ代行ヲ認メルト云フコトモ別ニ差支ハナイデアラウ、斯ウ云フ所カラ挿入セラレマシタヤウナ次第デアリマシテ、第九條ト云フモノハ本法ノ骨子デハナイノデアリマス、デ先程有馬伯爵カラ御述ニナリマシタヤウニ、産業組合ヲシテ爲サシムル場合ニ於テハ、或ハ掛金ノ取立、或ハ支拂等ニ於テ若干ノ便利ハアルコトハアリマセウ、サリナガラ大局ノ問題トシテ、私ハ右申述べタヤウニ、成ルベク摩擦ヲ少クシテ、而モ社會ノ改善、一般民衆ノ福利ヲ圖リタイ、斯ウ云フ所ニ出デテ居ルノデアリマス、且又假令此ノ國民健康……且又、私ガ一言申シタイコトハ、此ノ國民健康保險組合ニ於キマシテハ大體ニ於テ町村ト云フ一ツノ自治團體ヲ根據ト致シテ、所謂地方團體ノ相互扶助、隣保相助ト云フコトヲ前提ニ致シテ考ヘテ居ルノデアリマシテ、成ルベクナラバ町村ト云フ一團體ヲ一ツノ單位ト致シタイト思フノデアリマス、然ルニ産業組合ハ必ズシモ一町村ニ限ラナイ、或ハ或町村ノ一部ニ限ラレテ居ル場合モアリマスルシ、又或ハ市町村ヲ併セテ居ル場合、又或ハ或町村ト或町村ノ半分、或町村ノ全部、或町村

ノ半分ノ人ヲ網羅シテ居ル、斯ウ云フ風ナ
コトモアリマス、斯ウ云フ風ニ其ノ内容ガ
極メテ其ノ組合員ノ範圍其ノ他ニ於テ複雑
デアリマスルカラ、矢張り此ノ醫療組合ト
致シマシテハ、若シ是等ノ組合ヲシテ總テ
代行ヲ認メマスル場合ニハ、其ノ經費ノ問
題トカ種々ナル點ニ於テ複雑シタ關係ヲ生
ジマスルノデアリマス、本法案ノ骨子ハ大
體ニ於テ町村ヲ一ツノ單位ト致シマシテ、
市町村長ヲシテ大體ニ於テ其ノ組合ノ組合
長トシテ扱ハシメル、斯ウ云フ趣旨デアリ
マスルノデ、成ルベク其ノ一ツノ町村内ノ
住民ト云フモノガ一團トナルト云フコトガ
適當デアラウト考ヘマス、然ルニ只今申上
ゲマシタヤウニ、産業組合ハ其ノ組合員ガ
種々デアリマスルカラ、總テノ産業組合ヲ
シテ是等ノ仕事ヲ爲サシメ代行セシメルト
云フコトハ、却テ事務ノ煩雜ヲ來シハセヌ
カ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、從ヒ
マシテ將來此ノ醫療組合ニシテ代行ヲ認メ
ラル、モノノ條件ト致シマシテ、一町村ノ
町村民全部ヲ網羅シテ居ルト云フモノナル
コトヲ條件ト致シマシタヤウナ次第デアリ
マス、尙此ノ組合ガ出來マシテモ、必ズシ
モ先程私ガ申上ゲマシタヤウニ、或ハ物納
ヲ認メルトカ、或ハ其ノ他ノ便法ハ、ソレ
ソレ組合規約ヲ以テ規定シ得ルト考ヘマス
ルカラ、別ニ産業組合等ノ組合以外ニ於
テ、國民ノ健康保險組合ト云フモノガ出來

マシテモ、ソレ程煩雜ナ影響ヲ町村住民ニ
與ヘルトハ考ヘナイノデアリマス、從ヒマ
シテ第九條ノ營利ヲ目的トセザル社團法人
ト云フ意味ト、今回衆議院ニ於テ決議セラ
レマシタ修正案ノ附則醫療設備ノ利用ヲ目
的トスル産業組合ニシテ、ト云フ意味ハ全
ク同様デアリマシテ、初メニ原案ヲ作リマ
シタ趣旨モ、所謂醫療組合ニ限ッテ居ルト
云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、次ニ所
謂此ノ細民街ノ住民ニ對シテハドウ云フ風
ナコトヲヤルカ、所謂國民健康保險法ノ適
用ニ於テ如何ナル處置ヲ爲シテ行クカト云
フ御尋デアリマス、國民健康保險法ハ先程
私ガ申上ゲマシタヤウニ、大體ニ於テ所謂
庶民階級ヲ目標ニシテ居ル次第デアリマシ
テ、必ズシモ國家或ハ其ノ外ノ社會ノ恩惠
ニ賴ルト云フ意味デハナク、自己ノ所謂自
力ニ依ッテ、ソレ／＼平素ニ於テ若干ツノ
持出シラシテ、サウシテ一朝病氣ニデモナ
リマシタ時ノ、不時ノ用ニ備ヘルト云フ趣
旨デアリマスルカラ、所謂自力獨立ノ出來
ル方法ヲ大體ニ於テ目標ニシテ居ルノデア
リマス、デアリマスルカラ所謂窮民ノ人
人ニ付キマシテハ、是ハ或ハ救護法ニ依ッ
テ國家ガ之ヲ救済シナケレバナラヌ場合モ
アリマセウシ、或ハ濟生會其ノ外、所謂慈
惠ノ設備ニ依ッテ、是等ノ疾病ニ對スル
救療ヲスル、斯ウ云フ風ナコトヲ考ヘナケ
レバナラヌと思ヒマス、併シナガラ斯ウ云

フ方面ニ於キマシテ眞ニウマク出來マスル
ナラバ、是ハ矢張り一ツノ、必ズシモ之ヲ
認メナイト云フ必要ハナイ、斯ウ云フ風ニ
思ヒマスルガ、大體ノ考方トシテハ、斯ウ
云フ方面ニ是ケル醫療ニ對スル施設ハ、所
謂慈惠、國ノ慈惠、或ハ社會公共ノ慈惠施
設ニ依ッテ實行シテ行ク方ガ適當デハナイ
カ、斯ウ云フ風ニ考ヘル次第デアリマス、
ソレカラ次ニ衆議院ニ於テ修正附加セラレ
マシタ所ノ附則ノ、昭和十二年三月三十一
日現在ニ於テ醫療事業ヲ行フモノト云フノ
ガアリマスルガ、此ノ三月三十一日ト云フ
一體標準ハ何處カラ出テ來タノカ、斯ウ云
フ御尋デアリマシタ、是ハ先程私ガ申上ゲ
マシタヤウニ、大體ニ於テ現在ヤッテ居ル
醫療組合ニ於テ適當ナルモノハ是ハ認メタ
ラ宜イデヤナイカト云フ所カラ、此ノ第九
條ト云フモノガ出來タノデアリマスルガ、
併シナガラ之ニ付キマシテハ種々ナル議論
ガアッテ、是レ以上成ルベク代行ト云フモ
ノハ認メテ貰ヒタクナイ、斯ウ云フ所カラ
來マシテ、是ガ衆議院トシテ議論ヲ重ネタ
上ニ出來上ッタ次第デアリマシテ、此ノ根
本精神ニ於テハ當局トシテモ異議ノナイ所
デアリマシテ、唯此ノ三月三十一日ト云フノ
ハ、所謂何ト云ヒマスカ、本法ガ出來上ッタ時
ト、斯ウ云フ意味ニ於テ三月三十一日ト云フ
コトガ書カレタノデアリマス、三月三十一
日ト云フノハサウ云フ意味デ、即チ現在存

在シテ居ルモノ、斯ウ云フ意味デアリマス、
然ラバ將來醫療組合ガ出來タ場合ニ、ドウ
スルカト云フコトニナリマスレバ、是ハ所
謂代行ト云フ、本法ニ依リ代行ハ認メラレ
ヌ、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、サ
リナガラ産業組合ニ於テ醫療事業ヲサレル
コトハ、是ハ別ニ法律ニ於テ禁止スルノデ
ハナイノデアリマスルカラ、或ハ産業組合
ニ於テ、醫療ノ事務ヲヤラレルト云フコト
モアラウト思ヒマス、併シナガラ將來ハ矢
張り一般國民ノ健康、疾病、救療ト云フコ
トニ付キマシテハ、國民健康保險組合ガ其
ノ骨子トナッテ行クト云フコトガ最モ適當
ト考ヘル次第デアリマシテ、之ニ對シマシ
テハ若干ナリトモ國庫カラ補助ガ出ルノデ
アリマスルカラ、將來ハ恐ラク此ノ國民健
康保險組合トシテ、サウ云フ形ニ於テ出來
ルモノガ多イノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ
想像スル次第デアリマス、尙是ハ役所ノ手
續ノ問題デアリマスルガ、産業組合ノ一般
的ノ監督ト云フコトハ、是ハ申ス迄モナク
農林省ノ所管デアリマシテ、醫療ノ施設ニ付
キマシテハ、内務省ノ所管ニナリマスルガ、
産業組合ト云フモノニ對シテハ農林省ノ所
管デアリマス、サリナガラ第一次ノ監督官
廳ハ私ガ申ス迄モナク地方長官デアリマス
ルカラ、其ノ點ニ於テハ一致ノ取扱ガ出來
マスルガ、唯法律論ヲ申上ゲマスルト云フ
ト、所謂産業組合ノ事業自體ハ農林省ノ所

管デアリマス、ソレカラ團體契約ノ問題ニ付キマシテハ、私ガ先程述べマシタヤウナ趣旨デ、是ニハ賛成致シ兼ネタノデアリマス、ソレカラ最後ニ醫師ガ正當ノ理由ナクシテ往診ヲ拒ンダ場合ニ之ヲ如何ニスルカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ醫師法ノ第九條ニ於テ、醫師ハ正當ノ理由ナクシテ往診ヲ拒ムコトガ出来ナイト、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、而シテ之ニ違反シタ場合ニハ五十圓以下ノ罰金ニ處スルト云フ規定ガアルノデアリマス、苟モ仁術タル醫者ガ、往診ヲ理由ナクシテ拒ムト云フコトハ甚ダ是ハ宜シクナイコトデアリマスルカラ、斯ウ云フ場合ニハ嚴重ナル取締ヲスルコトガ必要デアラウト考ヘマス、尙若シ私ノ言葉ニシテ足りマセヌ所ガゴザイマシタナラバ、又重ネテ御尋ニ依ッテ御答ヲ致シマス

○伯爵有馬頼寧君 只今ノ御答辯ニ對シテ納得致シ兼ネル點モゴザイマスケレドモ、他ハ委員會ニ譲リマシテ、本議場ニ於ケル質問ハ是デ打切りマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 質疑ノ通告者ハ全部是デ終リマシタ

○子爵池田政時君 只今議題トナリマシタ國民健康保險法案ハ重要法案デアリマスカラ、其ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵植村家治君 賛成
○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔角倉書記官朗讀〕

國民健康保險法案特別委員

侯爵細川 護立君 侯爵井上 三郎君

伯爵有馬 頼寧君 松浦鎮次郎君

子爵高倉 篤磨君 子爵野村 益三君

子爵伊東 二郎丸君 男爵高木 喜寛君

男爵大森 佳一君 男爵關 義壽君

宮田 光雄君 金杉英五郎君

鶴澤 總明君 濱口儀兵衛君

金岡又左衛門君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、保健所法案、日程第五、結核豫防法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、内務大臣

保健所法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十五日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

保健所法案

保健所法

第一條 保健所ハ國民ノ體位ヲ向上セシムル爲メ地方ニ於テ保健上必要ナル指導ヲ爲ス所トス

第二條 保健所ニ於テハ左ノ事項ニ付指導ヲ行フ

一 衛生思想ノ涵養ニ關スル事項

二 榮養ノ改善及飲食物ノ衛生ニ關スル事項

三 衣服、住宅其ノ他ノ環境ノ衛生ニ關スル事項

四 妊娠婦及乳幼兒ノ衛生ニ關スル事項

五 疾病ノ豫防ニ關スル事項

六 其ノ他健康ノ増進ニ關スル事項

第三條 保健所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ北海道府縣之ヲ設置スルモノトス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ノ區域ニ在リテハ市之ヲ設置スルモノトス

保健所ニハ其ノ事業ノ執行ヲ便ナラシムル爲メ支所ヲ置クコトヲ得

内務大臣必要アリト認ムルトキハ第一項ノ公共團體ニ對シ保健所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第四條 本法ニ依ル保健所ニ非ザレバ其ノ名稱中ニ保健所タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ但シ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 保健所ノ設備ノ使用又ハ保健所ニ於テ行フ業務ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得ズ

第六條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保健所ニ關スル經費ノ支出ヲ爲ス公共團體ニ對シ其ノ支出額ノ二分ノ一以內ヲ補助ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

結核豫防法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年三月二十五日

衆議院議長 富田幸次郎

貴族院議長公爵近衛文麿殿

結核豫防法中改正法律案

結核豫防法中左ノ通改正ス

第一條 醫師結核患者ヲ診斷シ環境上病毒傳播ノ虞アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ速ニ行政官廳ニ届出ツベシ

第二條第一項及第三條中「結核患者」ヲ「病毒傳播ノ危險アル結核患者」ニ改ム
第六條 主務大臣ハ結核患者ニシテ環境上病毒傳播ノ虞アルモノヲ收容セシムル爲北海道府縣其ノ他必要ト認ムル公共團體ニ對シ結核療養所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

地方長官ハ環境上病毒傳播ノ虞アル結核患者ニシテ豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

第十條中「療養ノ途ナキ結核患者」ヲ「環境上病毒傳播ノ虞アル結核患者」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣河原田稼吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今上程ニナリマシタ保健所法案ニ付キマシテ、茲ニ結核豫防法中改正法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先ヅ保健所法案ニ付テ申上ゲマスガ、我が國民ノ保健狀態ヲ見マスルニ、近時稍、改善ノ跡ヲ認メ得ルノデアリマスガ、之ヲ歐米主要國ニ比較致シマスレバ、尙著シキ遜色ガアルバカリデナク、結核ノ蔓延ノ如キ、誠ニ

寒心ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマシテ、國民體位ノ向上ヲ圖リマスコトハ、當ニ喫緊ノ要務ト存ズル次第デゴザイマス、我が國ノ醫學ハ近年著シキ進歩ヲ遂ゲツ、アルニモ拘ラズ、國民保健ノ狀態ガ敍上ノ如クデアリマスノハ、他ニモ種々ノ原因ガ存スルコトト思ヒマスルガ、國民ノ健康ノ保持増進スベキ衛生上ノ施設ニ於キマシテ、尙足ラナイモノガアルト云フコトガ大キナ原因デアラウト思ハレルノデアリマス、從ヒマシテ國民ノ體位ヲ向上セシメマス爲ニハ、健康ノ増進乃至疾病ノ豫防ニ關スル指導扶掖、即チ積極的指導衛生ノ方面ニ於キマシテ、一段ノ努力ヲ致サナケレバナラナイト考ヘル次第デアリマス、以上申述べマシタ事情ヲ篤ト考慮致シマシテ、今回政府ハ一般國民ニ對シマシテ、保健上萬般ノ指導ヲ致シマス所ノ機關デアル保健所ノ設置ヲ企畫致シマシテ、茲ニ保健所法案ヲ提出シタ次第デアリマス、保險所ハ國民體位ヲ向上セシムル爲メ、衛生思想ヲ啓發致シマシテ、衣食住其ノ他日常生活ノ衛生的改善ヲ指導シ、結核其ノ他疾病豫防ノ指示ヲ爲ス等、有ラユル角度カラ保健上ノ指導ヲ爲ス機關デアリマシテ、保健所ニハ醫師、藥劑師、衛生指導員、公衆衛生看護婦等ヲ置キ、是等ノ職員ハ所内ニ於テ衛生各般ノ相談ニ應ズルノ外、擔任區域内ヲ巡回シテ實地指導ヲ爲シ、或ハ關係官公署團體等ト連絡協力

シテ、以テ指導事業ノ徹底ヲ期セムトスルモノデアリマス、保健所ハ大體人口二十萬乃至十二三萬ニ付キ一箇所ノ割合ヲ以テ全國ニ之ヲ設置シ、必要ノ地ニハ支所ヲ設ケシムル豫定デアリマシテ、之ガ設置經營ノ主體ハ、北海道、府縣又ハ特定ノ市デアリマスガ、國庫ハ其ノ創設費ニ對シ二分ノ一以內、經常費ニ對シ三分ノ一以內ヲ補助スル考デアリマス、以上ハ保健所法案ノ提出理由ト其ノ要旨デアリマス、續イテ結核豫防法中改正法律案ニ付キマシテ御説明申上ゲタイト思ヒマス、現行結核豫防法ハ大正八年ニ制定セラレタノデアリマスガ、結核豫防ノ目的ヲ達成致シマス爲ニハ、現行法ノ規定デハマダ不十分ナル點モアルヤウニ存ゼラレマスノデ、結核豫防施設ノ擴充ヲ期セムトスル此ノ機會ニ於キマシテ、本法ヲ改正シテ豫防上遺憾ナキヲ期シタイト存ズル次第デアリマス、今回改正法律案ニ於キマシテ、改正シタイト云フ主要ナル點ヲ申上ゲテ見マス、第一ハ現行法ニアリマス結核ノ定義ヲ削除致シマシテ、結核豫防法ノ適用ハ肺結核又ハ喉頭結核デアツテ、病毒傳播ノ危險アルモノニ限ルコトナク、其ノ他ノモノニ對マシテ之ヲ適用シテ必要ナル豫防法措置ヲ講ズルノ趣旨ヲ明カニスルコトデアリマス、第二ハ、醫師ガ結核患者ヲ診斷シタル場合ニ於キマシテ當該患者ニシテ環境上病毒傳播ノ虞アリト認メマスル時ニ

ハ、其ノ醫者ニ對シマシテ、之ヲ行政官廳ニ届出ヅルノ義務ヲ課シ、行政官廳ヲシテ豫防上適切ナ措置ヲ講ゼシメタイトスル趣旨デアリマス、第三ハ公立結核療養所ニ入所セシムル患者ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、環境上病毒傳播ノ虞アル結核患者ハ、療養ノ途ナキ者ハ勿論、其ノ他ノ者ヲモ入所セシメ得ルコトニ改メムトスルノデアリマス、第四ハ、現行法ニハ結核療養所ノ設置ハ、人口五萬以上ノ市ヲ原則トスルガ如キ規定デアリマスガ、寧ろ道府縣モ市ト相並ンデ之ヲ設置スルコトガ適當ト認メラル、ノデ、主務大臣ハ北海道、府縣、市、其ノ他必要ト認メマスル公共團體ニ療養所ノ設置ヲ命ジ得ルコトニ改メムトスルノデアリマス、以上ガ今回ノ改正案ニ於キマスル主要ナル點デアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願申上ゲマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガゴザイマセスケレバ兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔角倉書記官朗讀〕

保健所法案特別委員

侯爵大隈 信常君 伯爵川村鐵太郎君
子爵近衛 秀麿君 有吉 忠一君
男爵佐藤達次郎君 松村 義一君
丸山 鶴吉君 絲原武太郎君
青木才次郎君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程ハ全部終
了シマシタ、次會ノ議事日程ハ、決定次
第彙報ヲ以テ御通知ヲ致シマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス

午後三時六分散會

